

第1回 高2英語

総評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に力を伸ばすことのできる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしたい。

問題A

(1)、(2)はスクリプトの前半からの出題だったが、選択肢の中には紛らわしいものもあったため、放送内の正解の根拠を確実に聴き取って判断する必要があった。(1)のaや(2)のbのように、一見もっともらしいが放送中では言及されていない情報を含む選択肢を選んだ答案が多かった。

(3)は地図を見て、訪問予定の家の位置を答える問題であるが、誤答はeが多かった。男性の発言のWe go one block and at an apartment building, turn left.でeの位置がan apartmentであることを押さえておきたい。道案内でよく使う表現をここで確認しておくとうい。

問題B

Part 1 (2)はaやcを選んだ誤答が多かった。時刻や年齢など、数字が多く出てきたので、注意して聞き取りたい。(4)の記述式問題では「親と一緒にいられない時」と「楽しく過ごしてほしい」の2点を明示する必要がある。内容を完全に取り違えているものは0点であるが、部分的にこの内容が含まれていれば部分点を与えている。

Part 2 ディクテーションを出題した。スペルミスの減点は各一1点であるが、その他の単語の抜けや単語の誤りは配点分の減点とした。(ア)ではof the workersのofやtheを聞き逃しているもの、(イ)ではa planをplannedとしている答案が目立った。ディクテーションでは、a, of, theのように弱く発音される単語を聞き逃さないことに加えて、文法や語彙の知識に照らして答案に誤りがないかを確認することの2点に注意したい。

2 語句整序・和文英訳

問題A 語句整序

英文中の整序問題で日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(2)では空所の前にあるtoを含め前置詞の処理に苦勞している答案、特にtoの後にopenを続けたためにforの置き場がなくなってしまったものが多かった。また、(4)では前後の文脈と照らし合わせながらwhile節内のbe動詞と主語の省略を見抜く必要があった。

問題B 和文英訳

「日本観に関する随想」というテーマで、日本語を読み換えたり、時制に注意して動詞を決める必要がある出題とした。減点されたところを必ず見直して、同じ間違いを繰り返さないように注意しよう。

以下のような採点基準で、減点法で採点した。

Ⓐ ○私は、…時代を思い出しました。 ……3点
○日本人が、ヨーロッパこそ文明国だと異口同音に礼賛していた ……7点

「異口同音に」をallやmost ofといった表現を駆使して上手に言い換えた答案が多かった。一方で「思い出しました」「礼賛していた」「文明国だ」の時制の統一がとれていない答案も散見された。復習の際には、時制の一致についても一度確認しておきたい。

Ⓑ ○今日ほど、私たちが…に自信を持っている時はありません。 ……8点
○自分たちの文化 ……2点

「今日ほど…な時はない」という構造を比較表現を用いて書いた答案が多かったが、比較の対象の抜けや、比較表現の語順の誤りで減点されているものも散見された。これを機に各種比較表現の知識を再確認しておこう。

◎ ○ヨーロッパからの旅行者の中には、…日本好きになっている人もいます。 ……5点
○彼らにとってなじみの薄かった日本式のもてなしを受けて ……5点
「～好きになっている」という日本語を意識するあまり become to like ～ としている答案が多かった。

3 自由英作文

文法・語彙点と内容・構成点の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の下限の半分(25語)未満のものについては、文法・語彙点を与えない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点、8点、6点、4点、2点、0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答案は内容・構成点の減点対象となる。

- ・ どの案を選んだかが明確でないもの
- ・ 案を選んだ根拠の説明が不十分なもの

「校庭の花を増やす」案を選んだ答案の中には具体的に植えたい花を列挙するだけにとどまっているものもあった。自分の意見に説得力をもたせられるような文章の構成を考えたい。

4 長文読解

象を見に行った筆者一行と、その時の経験から学んだことを主題にした英文であった。難解な語彙が多いが、登場人物の動き、位置関係などを把握しながら読み進めていきたい。

(1) では、c を選んだ答案が多かった。本文の第1段落の内容に加え、空所の前の1文における情景描写と筆者一行の行動を理解しておく必要がある。

(3) company の解釈を誤っている答案が目立った。象の気配が強くなり、その場にいる誰もが company がいることを疑わなかった、という文章の流れに注意して答案を作成したい。

5 長文読解

文明の発達における鉄の重要性について述べた論説文。全訳も参照しながら全体の内容を再確認しておくとうい。

(1) ○ Iron is a natural gift of the earth ……3点

○ and almost as essential to the development of modern human civilizations ……4点

○ as oxygen is to animal life. ……2点

as ～ as…の構文の把握と、oxygen is (essential) to ～ の省略の読み取りがポイント。鉄と文明の関係を動物と酸素の関係になぞらえている点を理解して和訳できている答案が多かった。

(3) ○鉄製の農具の使用により ……3点

○食料の生産力が向上し、 ……3点

○その結果人口が増大し、 ……3点

○常備軍を抱えられるようになったから ……3点

の4要素から採点した。「食物の生産量が増えた」

→「人口が増えた」→「国力が強くなった」という流れに「鉄製の農具の果たした役割」を肉付けするように解答を作成するとよいだろう。「農具」という点に言及していない答案が散見された。

(4) ○ It is not hard to see ……2点

○ why such deep knowledge of … became a magnet ……3点

○ around which a single powerful civilization eventually arose, ……3点

○ uniting the people of the two great river valleys. ……2点

形式主語の構文で to see 以下が真主語であること、around which 以下の関係詞節と a magnet の修飾・被修飾関係、分詞構文 uniting 以下の訳出がポイントであった。分詞構文の意味上の主語については明示されていないものも許容とした。

第2回 高2英語

総評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

問題A

(1) 誤答としてはbとdが多かったが、創立されたのと校舎が建てられた時期がずれていることに注意して聞き取りたい。(4) 誤答ではbが多い。メアリーは a play and a rock band と言っているが、ケンジの最後の発言ではバンドの演奏が先にあることがわかる。複数箇所の情報を組み合わせて判断しよう。

問題B

Part 1 (1)～(3)は比較的よくできている。

(4) 質問文には How did Kenji feel …? とあるが、模範解答のように miss を使って答えられた解答は少数だった。また、when he came back to hot and humid Japan とあるので、読み上げ文でもこの表現が使われた前後に注目したい。読み上げ文の最後に「またカナダに行きたい」とあり、この部分を含めた解答が散見されたが、ここでは質問文をふまえて、気候を中心に答えることに注意しよう。

Part 2 スペルミスの減点は各ー1点であるが、その他の単語の抜けや単語の誤りは配点分の減点とした。(ア)では harder という比較級にできなかった

もの、harder に引かれて from でなく than と書いてしまったものなどが見られた。(イ)では backgrounds を2語に分けてしまったものが意外にも多く見られた。また、前置詞 from は弱く発音されることに注意しよう。苦し紛れに who としている答案もあった。ディクテーションでは一般的に a, of, the のように弱く発音される単語を聞き逃さないことに加えて、自分の解答が文法や語彙の知識に照らして誤りがないか確認することに注意したい。

2 語句整序・和文英訳

問題A 語句整序

英文中の整序問題で日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(1) (2) は比較的よくできている。(3) 2つの動詞を逆にしたウ→オ→エ→カ→ア→イだと 'Marmalade' means 'marmelo', which drives from (quince in ~) となるが、これでは『「マーマレード」というジャムそのものが『カリン』という果物を意味する」ということになり、直前の文の「マーマレードはカリンから作られたジャムを意味するものだった」と矛盾してしまう。(4) 冠詞 the が付くのは amateur marmalade makers ではなく、「コンテストの出場者」という意味で限定される competitors の方である。

問題B 和文英訳

「スマートフォンを利用した旅行」というテーマでの出題。減点された部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

① 「どんな情報でも与えてくれるスマートフォン」は、解説にあるように、制限用法の関係代名詞で書くと、そうでないスマートフォンもあるような印象を与えるので、コンマを打って非制限用法にすることがポイント。「～にとって代わる」は replace ～ や take the place of ～ を知らないといけない。また take place では「物事が起きる」の意味の、別の熟語になるので区別して覚えよう。「～の代わりに…が情報を与えてくれる」と読み換えてもよい。

② 「できるだけ多くの～」では 'as 形容詞+名詞 as' の語順の間違いが散見された。× visit many popular places as many as possible などとしないよう注意しよう。

③ 「解答」のように you can enjoy ～ の形で表せ

ていた解答も少し見られたが、ほとんどが「旅の醍醐味」を主語にして表していた。「事がうまく運ばない」は「計画したように物事を行えない」のように読み換えたものの、英語として不自然な表現が目立った。日本語の字面にとらわれず、訳しやすい日本語に直してから英訳する姿勢を保ちつつ、基本語を用いて簡潔に表現できるようにしたい。

3 自由英作文

文法・語彙点と内容・構成点の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の下限の半分(25語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点、8点、6点、4点、2点、0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答えは内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由の説得力が欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの

賛成意見としては「勉強時間の確保」「休息や自由な時間に充てるべき」、反対意見としては「まとまった練習時間の確保」といったように具体的に根拠を示している答案が多かった。同じ内容を繰り返すだけでは主張の説得力に欠けてしまうため、理由は異なる観点から複数挙げると指定語数を満たすのに書きやすかっただろう。

4 長文読解

ジョン・ロールズというアメリカの哲学者が書いた書籍を中心に、経済学の初歩的な理論について解説した文章。内容的にはやや抽象的な部分もあるが、人間は現在の自分が置かれた状況をもとに物事を考えがちである、というところは具体例を挙げて述べているので、イメージをつかめたのではないかな。

(1) 倒置構文になっているのでそれを生かして「中心にあったのは…だった」のように訳したいが、この倒置は、強調のためとも文のバランスを整えるためのものとも考えられるので、通常の訳順にしたものも許容した。state は前の部分から「状況」ではなく「国家」と訳す。「発言；記述」という訳が見

られたが、この意味を表すのは statement である。

(2) 誤答では d を選んだ答案が多かった。これは一般的な考え方から選んだのかもしれないが、本文の記述にはなく、ロールズの主張とも異なる。

(5) 誤答では b が目立つが、「必ず」などの断定的な内容を含む選択肢は、本当にそう言えるのか注意深く本文を確認するようにしよう。

(6) d を挙げられた受験生は少なかった。誤答では c と f が目立つ。もっとも面白い内容でも、本文の論理展開との整合性を確かめることが大切。

5 長文読解

ペットとしての猫の魅力・特徴について述べた文章。全訳も参照しながら全体の内容を再確認しておくとうい。

(1) 空所①について、yet は現在完了の否定文などで副詞として使われるのを目にすることが多いので、接続詞としての意味を推測しにくかったようだ。

(2) as if …を「たとえ…としても」と訳したものなど、この表現が仮定法だとつかめていなかった解答が散見された。続くSVが省略されている点にも注意したい。

(3) while を「…する間は」と訳した解答が多く、it cannot possibly be sufficient 以下は it を to 以下を受ける仮主語と捉えたものや、sufficient の訳出が不十分な解答が見られた。

(4) この段落の第1文をまとめて含めてもかまわないが、その部分のみに終始したものは不可とした。

第3回 高2英語

総評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

問題A

(3) 誤答としては **a** が多かったが、‘~ is one thing; ... is another’ (～と…は別ものである) という表現を知っていたかが問われた。

問題B

Part 1 (1) ~ (2) は比較的よくできている。

(4) は **foods** と書いている受験生もいたが、**food** は不可算名詞で、複数の種類を念頭において言う場合以外は **s** をつけない。

Part 2 今回はスペルミスや、単語の抜けや単語の誤りなどは一律、配点分の減点とした。

(ア) では **there are** はできているものの、**kind** を複数形にできていなかったり、**communication** を複数形で書いてしまったりしたものなどが見られた。

(イ) でも **a number of** の **a** が抜けたもの、あるいは **a number of** ができているのに、**technology** を複数形にできていないものなどのミスが多かった。ディクテーションでは一般的に **a, of, the** のように弱く発音される単語を聞き逃さないことに加えて、自分の解答が文法や語彙の知識に照らして誤りがないか確認することに注意したい。

2 語句整序・和文英訳

問題A 語句整序

英文中の整序問題で日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(1) **ウ**から始められなかった解答が目立つ。また、**ウ**のあとに**オ** (**specialized**) の方を選んでしまったものも多かった。どの過去分詞を **kept** の補語にするかは文脈の理解が不可欠。

(2) は比較的よくできているが、**only** を入れる位置を誤ると文脈がつながらなくなってしまった。

(3) (4) もよくできていた。

(5) の誤答では **had been known about Leonard's work** (**ウ** → **イ** → **エ** → **ア** → **オ** → **カ**) というものが大変多い。**if** の省略で疑問文の語順になるということまでは理解できていたが、疑問文の形について「助動詞を含む文は助動詞を文頭に出して疑問文を作る」という点について理解がややふやだったということになる。

問題B 和文英訳

タイムカプセルを掘り出すにあたっての語り手の心情をテーマにした出題。日本語の字面にとらわれず、訳しやすい日本語に直してから英訳する姿勢を保ちつつ、基本語を用いて簡潔に表現できるようにしたい。減点された部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

㉑「思い出す」: **remind** は「人に～を思い出させる」なので、ここで **I** を主語にしては使えない。

「胸をおどらせていた」: **be interested in** や **be happy about** ではこの意味合いには少し弱い。「わくわくしていた」ということなので **be excited about** [**by**; **at**; **over**] に思い至りたかった。**look forward to** (= **to be excited and pleased about something that is going to happen** (LDCE)) を用いたものは許容とした。

㉒「…だろうと思いました」: **I thought there were few people** は、時制について注意深くなりたいたい。「悪天候」: ここでは特定の日の天候を言うので **the** をつけて使うことに注意しよう。「歓声」: **cheer** は思いつかなかったと思うが「喜びの声」と考えて **cries** [**shouts**] **of joy** と工夫して訳せれば合格。「裏切られた」では **betray** を使った直訳では通じないが、そのような訳は少なかった。「予想」: **prediction** :

supposition ; anticipation など許容。

◎「虫捕り」の動詞には capture ; collect も使える。hunt はもっと大きな動物を「狩る」という意味なので不適當。「虫」には insect のほか、bug も使える。worm は「毛虫 ; 芋虫」を指し、意味がせまくなるのでここでは使えない。「歯が立たない」(= 打ちまかせられない) では beat のほか、defeat も使える。「～となると」には最適の定形表現 when it comes to ～があることをここで確認しておきたい。このイディオムを使わない場合は Ryota was much better at catching insects than me などとも表現できる。

3 自由英作文

文法・語彙点と内容・構成点の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の半分(33語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点から0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答案は内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由の説得力が欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの

解答・別解では「60歳になったら～返納する」ことも記述内容に含めて全体としてひとつの主張になるようにまとめる形にしているが、今回の試験の答案としては「その意見に賛成 [反対] という書き方のものも許容した。また、文字通り「賛成 [反対] だ」と述べていなくても「返納する必要はないと思う」だけでも反対の意志が読み取れるので許容とし、また「60歳」という年齢に注目し「60歳での返納は早すぎるので反対だ。70歳であれば妥当だと思う」など、条件付きで反対しているものも許容。賛成意見としては「事故を起こす危険性が高い」、反対意見としては「買い物など、生活に必要」などの理由を挙げた答案が多かった。同じ内容を繰り返すだけのものや、理由をいくつか挙げただけで箇条書きに近いものは主張の説得力に欠けてしまうので気をつけよう。

4 長文読解

「選択」をテーマにしたエッセイ。やや抽象的な箇所もあり読みづらさを感じたかもしれないが、著者の体験を述べている箇所を手がかりにすれば趣旨を読み取れたのではないか。

(3) while を「…であるのに [である一方]」という‘対照’を表す接続詞で訳すべきところ、「…の間」と訳しているものが多かった。we may not always have … と後ろの we always have … が手がかかりとなった。have control over ～ の control を「操作する」と訳したものが多かった。また among はここでは「(選択肢の) 中から [中で]」と訳すほうがより自然だろう。may を訳出していない答案も多く見られたが、ここでの may は‘推量’を表し文意からも訳出は必要だろう。

(4) 空所 B について、文脈の読み解きと熟語の知識を問う問題であった。正解の b を挙げられた受験生は少なかった。選択肢 a を選んだ解答も多くあったが、come by (手に入れる) は正反対の意味なので注意しよう。

(5) 第1段落で述べられた内容と第2段落以降の内容のつながりに戸惑いを感じたかもしれない。エッセイでは論説文より段落の展開がわかりづらいかもかもしれないが、先へ読み進めていくことも大切。

5 長文読解

極地よりも低緯度のほうが生物の多様性が高くなるという、生物の多様性をめぐる諸説が述べられた文章。

(1) 解答箇所を見つけられているものの、単語の訳し方などの誤りが見られる答案も少なくなった。life は多義語だが、ここでは「生命」ではなく「生物」が適切。文末は「～こと」や「～というパターン」など体言止めでまとめていないものは減点とした。

(2) 下線部に含まれる単語自体には難しいものはなかったが、自然な日本語で訳す工夫が求められる問題であった。the case を「場合」や「例」と訳していた解答があったが、「実情、そう (いうこと)」という意味。advance はここでは「唱えられた」や「提言された」と訳した方がよい。

第4回 高2英語

総評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

問題A

(3) 誤答としては **d** が多かった。音声に出てきた **bonus** につられないこと。

問題B

Part 1 (4) 2つともできて与点した。(ア) は割合よくできている。**kemical** や **cemicle** などのスペリングミスに気をつけたい。(イ) **point** とした誤答が散見されるが、直後に名詞 **pleasure** があるので、形容詞が入ることに注意しよう。

Part 2 それぞれ、完全に書けて与点した。

(ア) **whether it is resulted on** や **whether it is a result** など、弱く発音されて聞き取りにくい単語がやはり書けていない。(イ) でも **to** を聞きもらした **I can learn** (ハ) **avoid** や **I can learn to avoid to** などの文法ミスが見られた。ディクテーションでは一般的に **a, of, the** のように弱く発音される単語を聞き逃さないことに加えて、自分の解答が文法や語彙の知識に照らして誤りがないか確認することに注意したい。

2 語句整序・和文英訳

問題A 語句整序

英文中の整序問題で日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(1) 誤りの多い解答では、最後の3つの並べ替えで苦戦している解答が目立つ。**best** を入れる位置が難しかったのかもしれない。この **best** は副詞である。また **each** の位置を **the one** の前後に置いた誤りも多かった。**one** が何を受けるかも確認が必要で文脈の理解が不可欠だった。

(2) 誤りの多くは **those** が人々を指すと気づいていなかったと推測される。例えば、**those (who are) rich** で「裕福な人々」の意味を表す。**not inaccessible** と続けた解答もあったが、文脈と合わない。

(3) は倒置が起こる場合を見抜けるか試す出題。**Not until** ～を文頭に出すことに気づいていた受験生もいたが、**ア** (**appeared did**) → **エ** (**the phonograph**) と倒置の箇所を誤った答案が多かった。

(4) (5) は比較的よくできていた。決まったイディオムをおさえておこう。

問題B 和文英訳

企業の学生採用をテーマにした和文からの出題。訳しやすい日本語に直してから英訳する姿勢を保ちつつ、基本語を用いて簡潔に表現できるようにしたい。減点された部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

④基本事項を確認する目的でこの小問を作った。「どこの大学を出たか」「大学で何を学んだか」では間接疑問文を使って表す場合、**what university did students graduated from / what did students study** など間接疑問文の形が徹底できていない解答がまだまだ目立った。

⑤まず「のどから手が出るほど」という表現をどう英語で表せるかを見た。訳出されていないものは減点としている。直訳している解答も一部見られたが、概ねここは意味を汲み取れていた。受験生の中では **really** が多かったが、副詞を使わない **be keen to … ; be anxious to …** なども広く許容した。「対応する」は解答・別解以外では **cope with** ～ ; **address** なども有効である。「日々」は **every day** と2語で表すべきところを **everyday** と1語で書いているものなど細かいミスも避けたいところであ

る。

©「～だからだ」という日本語を見て、単独の Because 節を使った答案が散見された。Because S + V ~という形で単独で使えるのは、Why …? で問われた時の返答で用いる場合である。誤答の中には This is why S + V ~ (そういうわけで～) も多かった。「生き残り」を survive (動詞形) と書いている答案が目立った。「かかっている」を depend on を進行形で表しているものがあつたが、通例進行形は使えない。

3 自由英作文

文法・語彙点と内容・構成点の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の半分(30語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点から0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答案は内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由の説得力が欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの

今年のテーマは、受験生にとってなじみのある話題であったせいか、内容は考えやすかったのではないだろうか。今回は DVD にすることに賛成か反対かを問うもので、DVD と紙〔冊子〕の卒業アルバムのどちらも欲しいなどの解答は基本的に許容しなかった。解答例・別解の他に、賛成・反対例として「DVD は紙〔冊子〕に比べてデータが多く入れられる」「DVD は壊れると見られない」「DVD は小さくて失くしてしまうかもしれない」などが書かれていた。だが「DVD は紙〔冊子〕に比べてたくさんのことを思い出す」でとどまっているなどその理由、主張のサポートがないものも多い。1つのことを掘り下げて書ける力も養う必要がある。今後のために、形式面で指摘をしておきたい。第1文(I agree with the idea.)と最終文(So, I agree with the idea.)ではほぼ同じ文が重複する解答例が見受けられた。学校等でも指摘されているとは思いますが、本問のように語数の少ない場合は同じ文の重複は避けたほうがよい。

4 長文読解

「思考は思考にすぎず、現実ではない」「思考が感情を作っている」さらに「想像したことが現実のものではないことに気づけば人生の悩みを減らせるだろう」と説く自己啓発本からの出題。深く思考することを否定しているわけではないだろうが、思考により生まれた否定的な感情に心を乱されることなく人生を送ってほしいという内容である。

(1) 下線部直後の文を2つに分け、それぞれのポイントを正しくまとめられているものに点を与えた。各ポイント中での誤訳はポイント分の減点で、原則として部分点はナシとしたので、点差が開いたと思われる。設問は「友人の離婚」について聞いた時の具体的な「思考」について述べることを求めている。具体的でなく下線部の和訳に終始したものや、仮定法の2つの節をふまえた説明になっていないものが目立ったが、細かい点はどうあれ、「同じ出来事でも違った視点から考えると違う感じ方になる」という著者の主張自体は理解できている答案も見られた。

(5) 文章全体の主旨を問う問題だが、比較的よくできていた。

5 長文読解

人間の声を電子的に合成する技術の進歩と現状について述べた文章。カーナビなどの案内音声の思い浮かべながら読むとわかりやすいだろう。

(1) pronounced quite differently の修飾位置がわかっていないものが見られた。解説にもあるように、文法的には a noun for a heavy metal を修飾するので「発音のまったく異なる～名詞」のように訳すとよい。「コンピューターはどのように区別して発音すべきか」のように a computer を主語、pronounced quite differently を述語として続けて訳してしまったものが目立つ。heavy metal は専門用語に近いので「ヘビーメタル;ヘビメタ」などの誤訳はいたしかたない。

(3) 空欄ではなく解答してある答案は概ね理解できているものが多かった。

(4) pass over ~や build の不適切な訳が多い。

(5) f はよくできているが、c の代わりに d を選んだものが多い。

第5回 高2英語

総評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

問題A

(5) いずれのイラストも紛らわしいので説明をよく聞く必要があったが、よくできていた。誤答としてはcが多かった。単純だが方角の聞き取りを間違えるだけでこのようなミスにつながる。

問題B

Part 1 (4) 2つともできて与点した。(ア)は medical としたものが散見された。直前の be used to ~を「～に慣れる」という意味に解釈し、to 以下を名詞句にしようとしたものと思われるが、それではこの文全体の意味が放送内容に合わなくなってしまふ。(イ)は放送内容には含まれない語のため難しかったであろう。different では、放送文内の remote が持つ「距離の遠さ」の意味合いが出ない。

Part 2 それぞれ、完全に書けて与点とした。

(ア) wearables 1語で wearable devices を指すことに気づかないと難しいだろう。このように、一般的に形容詞として使われる語が名詞的に扱われる場合もあることを覚えておくとよい。また、冒頭の to を聴き逃した答えも多かった。(イ) よくできていたが、make efforts の efforts を複数形にしてい

ない誤答が目立った。続く toward の t の音とつながって聴き取りにくいのが、make an effort という基本形を知っていれば気づけただろう。

2 語句整序・和文英訳

問題A 語句整序

英文中の整序問題で、日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(1) green と ice の対比については理解できている答案も多かったが、as opposed to ~ (～と対立するものとしての) の語順で誤りが目立った。

(2) the size の位置の誤りが目立った。… times the size of ~ = … times as large as ~ (～の…倍の大きさの) は難易度の高い表現で差がついた。

(3) were to melt から始めた誤答が目立ったが、下線部の後の entirely とのつながりも考えておきたかった。また、倒置に気づけなかった答案も多かったため、解説で考え方を確認しておこう。

(4) この段落の内容をまとめた箇所。氷の厚さと年代、氷の層の並ぶ順番を理解して読めていたかがポイントだった。

(5) provide A with B (AにBを提供する) を使った誤答が目立った。知っている表現に飛びつかず、前後をきちんと読んで判断することが重要。

問題B 和文英訳

ビジネスのための英語学習をテーマにした和文からの出題。訳しやすい日本語に直してから英訳する姿勢を保ちつつ、基本語を用いて簡潔に表現できるようにしたい。減点された部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

①「英語に堪能になる」は比較的よくできていた。苦労が見えたのは「活躍の場を広げる」で、expand the place where I can work などと直訳した答案が多かった。ここでの「場」とは、つまり「活動の範囲」や「担当する業務の種類」のことだと読み換えられると、真意が伝わりやすい訳になる。

②「英語が通じる」は make oneself understood in English がよく使われる表現なので、覚えておくとよい。「会話ははずんだ」は the conversation was successful など、意味をきちんと理解した解答も多く見られた。

③「Aが…すればするほど、Bは～する」、「…するのにな～すぎることはない」はともに和文英訳で問

われやすい表現だが、どちらもよく書けていた。

3 自由英作文

文法・語彙と内容・構成の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の半分(30語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点から0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答えは内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由の説得力が欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの

今回のテーマは、レストラン入店における年齢制限に対する賛否を問うものだった。よく見かけるテーマではなかったかもしれないが、レストランで子供連れの家族と居合わせた経験を踏まえれば、書きやすいテーマだったのではないだろうか。解答例・別解の他に、賛成例として「子供向けのメニューや椅子などを準備するのに手間やお金がかかる」、反対例として「子供連れで行くことができるレストランが少なくなると、子供連れでの外出が難しくなり、少子化につながる恐れがある」なども挙げられていた。一方で、「小さい子供はうるさいから」など、主観のみの主張でとどまっているものもあった。意見を述べる英作文では、自分とは異なる意見の人に対して説得するという視点を持って取り組みたい。理由を述べる際には、具体例やエピソードを挙げるなどして、読み手が納得できるような根拠を示すように心がけよう。

4 長文読解

物理学者である筆者が、男女同権主義団体から抗議を受けた際の出来事を描いたエッセイからの出題。筆者の妹と筆者の友人とのやりとりや、筆者の著書で扱われたエピソードなど、注意して読まない状況を読み間違いやすい箇所もあったと思われるが、筆者の最後の発言のオチを楽しんで読んでほしい内容である。

(4) 皮肉も含めて本文の流れが理解できているかどうかを試す問題。男女の対比はこのエッセイの核

となるころなので、わからなかった人は解説を読んで確認しておこう。

(5) 文頭の For を「～のために」「～にとって」と訳した答案が多かった。For 以下に women (do indeed) suffer from ~ という SV の形があることから、この For の役割を考えて解答したい問題だった。前後の流れや英文中の単語から何となく解釈するのではなく、文構造をきちんと解析して読む癖をつけよう。単語や表現については、まず presence (同席；出席) の誤訳が目立った。形容詞 present (出席している) と合わせて覚えよう。また、serve to … の訳脱も多かった。「(あなた方が出席したことが) …するのに役立つ」、「(あなた方が出席したおかげで) …することができる」などと訳すと自然な訳となる。

5 長文読解

古代からの人間と犬の関係について述べた文章。人間と犬との関係がどれほど古くから続いているか、他の動物との関係とどう異なるかという点を念頭に置いて読んでほしい。

(1) 挿入的に使われている分詞構文 buried ~ の構造を取り違えた誤訳が多く見られた。また、There lay ~ は There are ~ 構文とほぼ同じ捉え方ができるが、ここを誤訳したことによる主語の取り違えが非常に目立った。なお、puppy はそのまま「パピー」とはせずに「子犬」と日本語にすること。和訳問題や説明問題では、日本語として広く定着しているものを除いて、カタカナは用いないようにしましょう。

(2) 誤答が多かったのは b。ここは 1977 [S] is [V] ancient history [C] という構造であることを見抜くことがポイント。下線部以降の内容から、ancient history という比喩表現が意味する内容を的確に捉えよう。

(4) 「…変化した。」「～の進化を引き起こした。」のように、主語と動詞から成る‘文’として書いてしまった答案が目立った。直前の coevolution と同格関係にあることを確認しておこう。

(5) かなりの難問と言えよう。ここは“domesticating”(=引用符が付いている) が比喩であることも読み解く鍵となる。

第1回 高2数学

総評

今回は、「3角関数」「高次方程式」「確率」「微積分」「図形と方程式」「ベクトル」「数列」の各分野を扱った。

全体的に、やや難しく感じた人が多かったようだ。間違えた問題については、「解答」などを参考にしっかり復習しておこう。さらに、できていた問題についても、自分の解法と「解答」、「解説」などを見比べていろいろな方針を身につけ、理解をより深めるようにしてもらいたい。

また、答案のつくり方についても意識しておくとうい。せっかくわかっている、理解していることが採点者に伝わらないと点数はもらえない。「解答」の記述も参考に、どのように書けばよいか、どの程度書けばよいかなどについて確認しておきたい。

問題別講評

1 小問集合

(1) 3角関数の加法定理などについてはよく理解できているようで、出来はよかった。できなかった人は公式の確認を行うなどしておきたい。

(2) 3次方程式を題材に、解に関する理解を問う問題。これも出来はよかった。

(3) 2つの等差数列の共通項に関する問題。キの出来はあまりよくない。「18」と答えている答案が目立った。本問は、具体的に和の値を求める必要はないことに着目し、素早く解きたいところである。

(4) とくにケは出来が悪い。重複して数えてしまうことのないよう、丁寧に解く必要がある。

2 微積分

3次曲線と放物線によって囲まれる部分の面積を題材とした微積分の総合問題。

(1) 比較的よくできていた。

(2) ここは差がついたところ。面積の立式はよくできているが、計算ミスが非常に多かった。「解説A」のように工夫をして計算する方法を身につけておきたい。

(3) (2)の結果に自信がもてなかったか、白紙が非常に多かった。

3 図形と方程式

領域と最大最小を題材とした図形と方程式の問題。

(1) 比較的よくできていた。

(2) (i) $\alpha = -2$ を代入したときの領域を正しく捉えられていない人が多い。直線 $x - 2y = 0$ が右下がりの直線になっているものや、領域が直線の下側になっているものなど。落ち着いて式変形すれば問題ないはずなので、もう一度確認しておこう。

(2) (ii) 白紙が多かった。場合分けの考え方が重要な問題なので、解きなおして正しく理解してもらいたい。

4 ベクトル

ベクトルからの出題で、ベクトルを苦手としている人が多かったか、出来は非常に悪かった。

(1) ここは比較的よくできていた。

(2) 出来はよくない。途中でBEの長さを求める設問があるが、これを手がかりに、線分の長さの関係を利用する、すなわち、方べきの定理の利用を考えて欲しいところだった。途中の設問がヒントとなることもあるので、注意しながら解き進めよう。

(3) 時間がなかった、(2)の結果に自信がもてなかったなどの理由からか、白紙が非常に多かった。

5 数列

点の列を題材とした数列の問題。

(1) 比較的よくできていた。

(2) 設定がややこしかったためか、方針が立てられていない人が多い。点の列は大切な考え方なので、必ず確認しておこう。

(3) 最後の設問ということもあるだろうが、白紙が非常に多かった。

採点基準

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「解答」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

1 (40点)

いずれも答に

- (1) **ア**: 5点, **イ**: 5点10点
- (2) **ウ**: 3点, **エ**: 3点, **オ**: 4点10点
- (3) **カ**: 5点, **キ**: 5点10点
- (4) **ク**: 5点, **ケ**: 5点10点

2 (40点)

- (1) (10点)
共有点の座標をすべて求めて 10点
- (2) (15点)
 $S(a)$ を立式して 8点
答に 7点
- (3) (15点)
 $S(a)$ の増減を調べて 9点
答に 6点

3 (40点)

- (1) (10点)
正しいグラフがかけて 10点
- (2) (i) (10点)
不等式が表す領域の概形を図示して 2点
最大値を求めて 4点
最小値を求めて 4点
- (2) (ii) (20点)
 $\alpha \geq 1$ の最大値を求めて 4点
 $\alpha \leq 1$ の最大値を求めて 4点
 $\alpha \geq 0$ の最小値を求めて 4点
 $-1 \leq \alpha \leq 0$ の最小値を求めて 4点
 $\alpha \leq -1$ の最小値を求めて 4点

4 (40点)

- (1) (15点)
 $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AD} = -1$ を求めて 5点

\overrightarrow{AE} を \overrightarrow{AB} , \overrightarrow{AD} で表して 10点

(2) (15点)

BEの長さを求めて 5点

\overrightarrow{AC} を \overrightarrow{AB} , \overrightarrow{AD} で表して 10点

(3) (10点)

\overrightarrow{EM} を \overrightarrow{AB} , \overrightarrow{AD} で表して 5点

$\overrightarrow{EM} \cdot \overrightarrow{AD} = 0$ を得て結論に 5点

5 (40点)

(1) (10点)

答に 10点

(2) (15点)

x 座標を求めて 5点

y 座標の立式に 4点

y 座標を求めて 6点

(3) (15点)

P_n は直線OBの上側にあることを示して ... 3点

Q_2 と Q_4 は直線OBの下側にあることを示して

..... 2点

他の Q_n は直線OBの上側にあることを示して

..... 5点

答に 5点

第2回 高2数学

総評

今回は以下の分野から出題した。

「指数関数」「三角関数」「微積分」「確率」

「図形と方程式」「ベクトル」「数列」

レベルとしては、易・やや易・標準・やや難・難

と、幅広く出題した。標準レベルのものまでは全員に正解してほしかったが、残念ながら出来がよくない問題もいくつかあった。間違えた問題については、「解答」「解説」を参考にしっかり復習しておこう。

また、答案のつくり方についても意識しておくとうい。せっかくわかっている、理解していることが採点者に伝わらないと点数はもらえない。「解答」の記述も参考に、どのように書けばよいか、どの程度書けばよいかなどについて確認しておきたい。

問題別講評

1 小問集合

(1) 不等式の出来はよかったが、方程式の出来はその半分ぐらいだった。できなかった人は指数法則の確認をしておいてもらいたい。

(2) 三角不等式はよくできており、三角関数のとり得る値の範囲についてもまずまずの出来であった。

(3) 思ったほど出来はよくない。力では白答が目立った。

(4) キはよく出来ていた。クの出来は悪く、いろいろな誤答が見られた。

2 微積分

3次関数のグラフと最小値についての問題。

(1) よくできていた。

(2) (1) で求めた関係式を t の方程式と見て、その解の個数の話に着させるのがポイントであるが、この読み替えができていなかった。

(3) a の値による場合分けができていない人が目立つ。とくに、解の公式を使って方程式 $f'(x)=0$ の解を $x=-1 \pm |a-1|$ とし、絶対値の中身の符号で場合分けしておしまいにした人が多かった。このあと、 $a-2$ 、 $-\alpha$ と 0 との大小関係によって場合分けする必要がある。

3 ベクトル

円に内接する三角形を題材にしたベクトルの問題。

(1) よくできていた。

(2) 図形的に求めようとして計算ミスした人が多かった。

(3) 座標を導入して $\triangle PQR$ の面積を求めた猛者もいたが、全体的に出来はよくない。とくに、「解説B」の方法で求めようとして挫折した人が多かった。図形的な見方を身につけておいてもらいたい。

4 図形と方程式

2円の位置関係と軌跡に関する問題。数式処理力と図形的な見方の両方が必要で、難易度は高い。

(1) 「解説A」の方法で求めようとした人が大半を占めたが、正解にたどり着けたのはほんの一握りであった。根号と絶対値を含む不等式になるため計算は煩雑であるが、根気よく取り組めば解けないので、集中力を切らさないでほしかった。

(2) X 、 Y を m で表そうとしてミスした人、 m で表すことはできたものの、そこから m を消去できなかった人が多い。この処理は決して難しいものではない。しっかり復習して、確実にできるようにしておいてもらいたい。

(3) (2) ができていないので、手をつけられなかった人がほとんどであった。見方が面白い問題なので、再挑戦してほしい。

5 数列

漸化式で定められた数列についての問題。

(1) 一般項を予想しただけの人が少なくない。漸化式の両辺の対数をとった人はほとんどいなかった。

(2) (1) ができた人は比較的よくできていた。

(3) 不等式②を立式するところまでもやや難しく、さらに立式後の処理が難しいが、正答にたどり着いた人もちらほら見られた。後半で用いた「式の評価」の考え方は、とくに数学Ⅲにおいて重要であるので、ぜひ身につけてもらいたい。

採点基準

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「解答」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

1 (40点)

いずれも答に

- (1) **ア**:5点, **イ**:5点 10点
- (2) **ウ**:5点, **エ**:5点 10点
- (3) **オ**:5点, **カ**:5点 10点
- (4) **キ**:5点, **ク**:5点 10点

2 (40点)

(1) (10点)

接線の方程式を求めて 5点
 答に 5点

(2) (15点)

$g(t)$ の増減を調べて 8点
 答に 7点

(3) (15点)

方程式 $f'(x)=0$ を解いて 3点
 正しく場合分けして 3点
 それぞれの場合の $f(x)$ の増減を調べて 3点
 答に 6点

3 (40点)

(1) (7点)

答に 7点

(2) (13点)

$\vec{OB} \cdot \vec{OC}$ の関係を立式して 6点
 答に 7点

(3) (20点)

$\triangle PQR$ と $\triangle OBC$ の面積比を求めて 10点
 $\triangle OBC$ の面積を求めて 5点
 $\triangle PQR$ の面積を求めて 5点

4 (40点)

(1) (10点)

①, ②が円を表す条件を求めて 2点
 ①, ②から y を消去して得られる方程式の判別

式を求めて 3点
 答に 5点

(2) (15点)

X, Y, m の関係式を求めて 2点
 軌跡の方程式を求めて 6点
 軌跡の限界を調べて 2点
 図示して 5点

(3) (15点)

$\frac{2-Y}{2-X}$ の図形的な意味を捉えて 3点

$\angle DCE$ の大きさを求めて 6点

答に 6点

5 (40点)

(1) (15点)

一般項を推測して 3点
 数学的帰納法で証明して 12点

(2) (10点)

隣接する3項の和 S_k を求めて 4点
 答に 6点

(3) (15点)

P_{3n} 求めて 3点
 n の不等式を立式して 3点

答に 9点

第3回 高2数学

総評

今回は以下の分野から出題した。

「対数関数」「三角関数」「微積分」「確率」

「ベクトル」「図形と方程式」「数列」

レベルとしては、易～標準～難と、幅広く出題した。標準レベルのものまでは全員に正解してほしかったが、残念ながら出来がよくない問題もあった。間違えた問題については、「解答」や「解説」を参考にしっかり復習しておこう。

また、答案の作り方についても意識しておくとうい。せっかくわかっている、理解していることが採点者に伝わらないと点数はもらえない。「解答」の記述も参考に、どのように書けばよいか、どの程度書けばよいかなどについて確認しておきたい。

問題別講評

1 小問集合

(1) **A**では、 $2^0 = 0$ と間違えたと思われる答案が散見された。また**I**では、真数条件を見落とした答案が多かった。できなかった人は、これを機に十分注意してもらいたい。

(2) 三角関数の合成は基本的にはよくできていたが、三角不等式については、 $\alpha \leq \theta \leq \pi - \alpha$ を答えとするなど、惜しいものが見られた。

(3) 特に**キ**の出来は思ったほどよくはなかった。ここでは、**カ**の結果を利用して省力化するのがポイントである。

(4) 確率の問題であり、**ク**は比較的好くできていたが、**ケ**の出来はあまりよくなく、いろいろな誤答が見られた。

2 微積分

3次関数の微分についての問題。

(1) 極値をもたない条件であるが、「解答」の方法以外にも、方程式 $f'(x) = 0$ を解いて $0 = -2a$ を導いたりして、よくできていた。

(2) a の値による場合分けをした答案も見られたが、「解答」のように処理すればよいことを理解しておこう。また、解と係数の関係を利用することもできる。

(3) $a = 0$ の場合を $a < 0$ の場合に含めてしまったりして、この場合の考察がきちんとできていない答案が見られた。このレベルの問題に対しては、きちんとした答案が書けるようになっておいてほしい。

3 ベクトル

三角形と円を題材にしたベクトルの問題。本問や次の**4**の問題において、様々な図形的な視点を是非身につけてもらいたい。

(1) まずは**BC**の中点の位置ベクトルを求めたりして、よくできていた。

(2) (i) 与えられた垂直条件を内積を用いて立式できれば、さほど難しくはなかつたろう。

(ii) **AB**がこの円の直径であることに気づくのが最大のポイントである。この後は三角比を利用したり方べきの定理を利用したりと様々だったが、「解答」や「解説」以外の解法を用いた答案は、途中のミスが目立った。

4 図形と方程式

円の通過領域を求める問題。数式の処理力や図形的な発想力も必要で、難易度は高めである。

(1) 半径を求める際の計算ミスが目についたが、基本的にはよくできていた。

(2) (i) 図形的な条件を方程式の条件に読み替えるのがポイントである。「解答」のように読み替えたあと、数値代入法で処理した答案も見られた。

(ii) (i)の結果を利用するわけだが、白答以外の答案では、まず点**P**の軌跡を求めて、図形的に考えたものが多かった。

5 数列

群数列についての問題で、整数の性質と絡めて出題した。

(1) P_n の規則性については、概ね把握できているようだった。

(2) (i) 「解説」のように階差数列を利用したり、数学的帰納法を利用したりと、様々な解法が見られたが、階差が $4n$ であることの説明が不足しているものが目立った。

(ii) 「解答」や「解説」のように5で割った余りに着目した答案はあまり見られず、素直に10で割った余りに着目した答案でも、途中の説明不足のものが多かった。

採点基準

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「解答」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

1 (40点)

いずれも答に

- (1) ア：5点, イ：5点10点
- (2) ウ：2点, エ：3点, オ：5点10点
- (3) カ：5点, キ：5点10点
- (4) ク：5点, ケ：5点10点

2 (40点)

(1) (10点)

- $f'(x)$ を求めて3点
- $f'(x)=0$ の判別式に4点
- 答に3点

(2) (15点)

- 極値をもつ条件に2点
- $f(0) \cdot f(-2a)=0$ に8点
- 答に5点

(3) (15点)

- 場合分けと増減に各2点
- 最小値についての不等式に各1点
- 答や不適に各2点

3 (40点)

(1) (10点)

- 答に各5点

(2) (i) (15点)

- $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC}$ を a で表して6点
- $\overrightarrow{AG} \cdot \overrightarrow{BG}=0$ に3点
- a の方程式に2点
- a^2 の値に2点
- 答に2点

(ii) (15点)

- $\overrightarrow{AE}=\frac{1}{3}k\overrightarrow{AB}+\frac{1}{3}k\overrightarrow{AC}$ とにおいて2点
- $\overrightarrow{AC} \cdot \overrightarrow{BE}=0$ に7点
- k の値に4点
- 答に2点

4 (40点)

(1) (10点)

- 円の方程式を変形して4点
- 答に各3点

(2) (i) (15点)

- a について整理して3点
- 恒等式となる条件に6点
- (x, y) の座標に各2点
- 答に各1点

(ii) (15点)

- ABを直径とする円に2点
- a についての不等式に2点
- a の値の範囲(答)に2点
- $f(-1) \leq 0$ の式に2点
- $f(3) \leq 0$ の式に2点
- 領域の図示(答)に5点

5 (40点)

(1) (10点)

- $P_l(10, 1)$ は第10群の末項に2点
- $l=55$ (答)に2点
- k についての不等式に2点
- P_{200} は第20群の10項目に2点
- $P_{200}(10, 11)$ (答)に2点

(2) (i) (15点)

- a_n は第 $(2n-1)$ 群の中央の項までの項数に4点
- 第 $(2n-1)$ 群の末項までの項数に2点
- 第 $(2n-1)$ 群の初項までの項数に2点
- a_n を n の式で表して2点
- $n=1$ での成立を確認して3点
- 答に2点

(ii) (15点)

- b_n の式に3点
- 連続する3整数の積が3の倍数より,
5の倍数を示して3点
- $R(0) \sim R(4)$ に5点
- b_n を5で割ったときの余りは0, 1, 4に2点
- 証明を締めくくって2点

第4回 高2数学

総評

今回は以下の分野から出題した。

「高次方程式」「三角関数」「対数関数」

「場合の数・確率」「積分法」

「ベクトル」「数列」「図形と方程式」

レベルとしては、易～標準～難と、幅広く出題した。標準レベルのものまでは全員に正解してはしかなかったが、残念ながら出来がよくない問題もあった。間違えた問題については、「解答」や「解説」を参考にしっかり復習しておこう。

また、答案の作り方についても意識しておくとうい。せっかくわかっている、理解していることが採点者に伝わらないと点数はもらえない。「解答」の記述も参考に、どのように書けばよいか、どの程度書けばよいかなどについて確認しておきたい。

問題別講評

1 小問集合

(1) **A**では、 $3x-2$ や x を答えとする答案が散見された。また**I**では、 0 とする答案が見られた。これを機に剰余の定理を復習しておきたい。

(2) **ウ**は比較的良好にできていたが、**エ**は**B**と**D**を取り違えて $\frac{7}{12}\pi$ を答えとするなど、惜しいものが見られた。

(3) 特に**カ**の出来はよくなかった。 $0 < y \leq a$ とする答案が多く、真数条件に気づいているだけに残念だ。ここでは、 $\log_a y$ も真数になっていることから、不等式 $\log_a y > 0$ も解く必要があった。

(4) 場合の数と確率の問題である。**キ**の誤答では**60**が非常に多かった。問われているのは生徒の組合せだから、じゃんけんの手の出し方を考える必要はないことに注意しよう。

2 積分法

積分法を利用して面積を求める問題。

(1) 場合分けをして絶対値記号を正しくはずせていないもの、はずせたとしても場合分けの条件をみたすのか確認が足りないものなど、全体的に苦手な様子が出ていた。よく復習しておいてほしい。

(2) 定積分を利用して面積を立式しても、途中の計算でミスが目立った。ミスをしないような計算の工夫や解答の書き方をもう一度見直しておこう。

(3) 整数の性質に関する問題。できているものは「**解説 C**」の方法が多かった。いろいろな方法で考えることができるので、「**解答**」や「**解説**」を参考にしてほしい。

3 ベクトル

三角形と円を題材にしたベクトルの問題。

(1) 三角形の外心と重心を混同している答案が散見された。垂直二等分線の交点であることに気づけるかどうかカギ。

(2) (i) 与えられた垂直条件を内積を用いて表したあと、それをどのように利用するかで明暗が分かれた。

(ii) $\triangle ABC$ の面積を面積公式を利用して直接求めようとする答案が多かった。図形的な考察を加えることで処理量を減らすことができるので、このような視点を是非身につけてほしい。

4 数列

数列の和の性質を利用して、数列の和の最小値を求める問題。難易度は高めである。

(1) よくできていた。

(2) 数列 $\{a_k\}$ 、 $\{b_k\}$ の一般項を代入して計算した答案では、途中でミスをするものが多かった。

(3) (2)の式をすべて展開してしまい、数列 $\{x_k\}$ と数列 $\{b_k\}$ が一致するとき最小であることの説明不足が見られた。論証の仕方を身につけてほしい。

5 図形と方程式

図形的な条件と数式の条件の読み替えや数式の処理力が要求され、難易度は高めである。

(1) 「**解説**」のように垂直に着目するまではよかったが、こう読み替えると頂点での場合分けが必要なことを見落としてしまうようだった。

(2) (i) $\frac{y}{x-3}=k$ とおくことは比較的良好にできていたが、円**C**と放物線**P**の位置関係やその2つのグラフに囲まれる領域**D**を正しくつかめていないものが目立った。

(ii) 白答以外の答案では、図形的な条件を方程式の条件に読み替えることができていた。

採点基準

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「解答」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

1 (40点)

いずれも答に

- (1) ア：5点, イ：5点10点
- (2) ウ：5点, エ：5点10点
- (3) オ：5点, カ：5点10点
- (4) キ：5点, ク：5点10点

2 (40点)

(1) (10点)

C_k を場合分けして処理して 各2点
 答に各2点

(2) (15点)

定積分を用いた面積の立式に各3点
 定積分の計算に 各1点
 答に3点

(3) (15点)

$S(k)$ の分子が6の倍数となることに 2点
 連続する整数の積に変形, 説明して6点
 $k-1$ が6の倍数となることに4点
 答に3点

3 (40点)

(1) (10点)

P, Q, Rが中点であることに各2点
 答に4点

(2) (i) (15点)

両辺の絶対値をとって2乗して5点
 垂直の条件をベクトルで表現して2点
 外接円の半径の条件より2点
 k の2次方程式として処理して3点
 答に3点

(ii) (15点)

\overline{OA} を変形して $OD : OA = 5 : 7$ に4点
 T の式に4点
 S の式に3点
 答に4点

4 (40点)

(1) (10点)

答に 10点

(2) (15点)

$a_k + b_k$ が定数となることに2点

$\sum_{k=1}^n x_k = \sum_{k=1}^n k$ 2点

$\sum_{k=1}^n x_k^2 = \sum_{k=1}^n k^2$ 2点

与えられた式を n で表して6点

答に3点

(3) (15点)

$\sum_{k=1}^n a_k x_k = \frac{1}{6}n(n+1)(n+2) + \frac{1}{2}\sum_{k=1}^n (x_k - b_k)^2$ に4点

$\sum_{k=1}^n (x_k - b_k)^2 \geq 0$ に2点

$\sum_{k=1}^n a_k x_k \geq \frac{1}{6}n(n+1)(n+2)$ に2点

等号が成立するときに4点

答に3点

5 (40点)

(1) (10点)

Aと放物線上の点の距離の式に2点

平方完成して2点

最小となるときに2点

答に4点

(2) (i) (15点)

領域 D を図示して4点

$\frac{y}{x-3} = k$ とおいて, $y = k(x-3)$ が $(3, 0)$ を

通る直線であることがわかって2点

点 $(2, 1)$ を通るときの k の値に2点

放物線 P と接するときの k の値に4点

答に3点

(ii) (15点)

円 C の式に2点

a について整理して3点

a の2次方程式が

$0 < a < 2$ に異なる2解をもつ条件に ... 各1点

領域を図示して6点

第5回 高2数学

総評

今回は以下の分野から出題した。

「高次方程式」「三角関数」「場合の数・確率」
「指数・対数関数」「微分積分」「ベクトル」
「数列」「図形と方程式」

レベルとしては、易しいものから難しいものまで、幅広く出題した。標準レベルのものまでは全員に正解してほしかったが、残念ながら出来がよくない問題もあった。間違えた問題については、「解答」や「解説」を参考にしっかり復習しておこう。

また、答案の作り方についても意識しておくとうい。せっかくわかっているのに、理解していることが採点者に伝わらないと点数はもらえない。「解答」の記述も参考に、どのように書けばよいか、どの程度書けばよいかなどについて確認しておきたい。

問題別講評

1 小問集合

(1) **A**では、解の公式より求めた α を3乗する際に計算ミスしたと思われる、虚数を答えたものが目立った。次数下げの手法を確認しておこう。また、**I**でも虚数を答えたものが散見された。整式の除法についてよく復習しておこう。

(2) **ウ**は比較的できていたが、**エ**は x の係数 $\frac{2}{3}$ を無視した $\frac{\pi}{4}$ という誤答が目立った。

(3) **オ**はまずまずの出来だったが、**カ**では様々な誤答が見られた。2人が隣り合う場合の数は、隣り合う2人をひとまとめにして考えるのが定石。円順列の個数の求め方と合わせて確認しておこう。

(4) **キ**はできていた。**ク**については想定よりもできていたが、5という誤答が目立った。本問のような問題では、桁数や最高位の数字を求めたい数を、10の累乗を含む不等式で表すことがポイント。

2 微分積分

積分法を利用して面積を求める問題。

(1) 方針は立っているものがほとんどであった。しかし、判別式の条件より t の2次不等式を得たあ

とのミスが目立った。

(2) いわゆる「6分の1公式」が利用できることに気づいているものは多かった。しかし、その立式の際に x^2 の係数2を忘れたものが多かった。

(3) できていなかった。まずは面積を求める図形を正しく図示することを心がけよう。

3 ベクトル

三角形と円を題材にしたベクトルの問題。

(1) できていた。

(2) (i) 点Dが直線AB上の点であることを、ベクトルを用いて表すところでもつまずいているものが目立った。ベクトルの垂直条件と合わせてしっかり復習しておこう。

(ii) 点Fが円Kの周上の点であるという条件をどのように利用するかが難しかったようである。直径に対する円周角が直角であることに着目した「解答」のほか、半径に着目した「別解C」のような解答も可能である。本問ではどちらの方針でも計算量は大差ないが、臨機応変に対応できるよう、様々な解法を学び取ってほしい。

4 数列

2つの数列に共通する項に関する問題。

(1) できていた。

(2) 数列 $\{b_n\}$ の項を書き出すことで b_n を5や10で割った余りの周期性に気づいたものは想定よりも多かった。しかし、その周期性を示すところまでできていたものは少なかった。

(3) (2)で余りの周期性に気づけたものについては、最後までできていたものが多かった。

5 図形と方程式

領域に関する最大・最小問題。

(1) 領域の境界線は正しく図示できているものが多かった。しかし、その後、異なる部分を示しているものが目立った。

(2) (3)あまりできていなかった。このタイプの問題では、どんなときに最大値・最小値をとるか、図をかいて把握することがポイントである。図をかきながら方針が見えることも多いので、まったく手がつかなかった人も「解答」の図を見ながらもう一度考えてみよう。

採点基準

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「解答」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

1 (40点)

いずれも答に

- (1) **ア**:4点, **イ**:6点 10点
- (2) **ウ**:4点, **エ**:6点 10点
- (3) **オ**:4点, **カ**:6点 10点
- (4) **キ**:4点, **ク**:6点 10点

2 (30点)

(1) (8点)

直線 l の方程式を求めて 3点
答に 5点

(2) (10点)

面積を t の式で表して 6点
面積の最大値 (答) に 3点
そのときの t の値 (答) に 1点

(3) (12点)

直線 m, n の方程式を求めて 2点
面積を求める式に 7点
答に 3点

3 (30点)

(1) (8点)

$\vec{a} \cdot \vec{b}$ を求める式に 4点
答に 4点

(2) (i) (10点)

\vec{OD} を実数 s と \vec{a}, \vec{b} を用いて表して 2点
 s の値を求めて 4点
答に 各2点

(ii) (12点)

\vec{OF} を実数 t と \vec{a}, \vec{b} を用いて表して 2点
 t の値を求めて 6点
答に 4点

4 (50点)

(1) (10点)

答に 各5点

(2) (20点)

b_1, b_2, b_3, b_4 を5で割った余りを
それぞれ求めて 4点

数列 $\{b_n\}$ の各項を5で割った余りが
周期性をもつことを示して 8点

答に 8点

(3) (20点)

数列 $\{b_n\}$ の各項を5で割った余りが
0以外のすべての値をとることに 10点
答に 10点

5 (50点)

(1) (10点)

領域 D の境界となる図形を図示して 6点
答に 4点

(2) (i) (15点)

a が最大値をとる状況を説明して 5点
 a が最小値をとる状況を説明して 5点
答に 5点

(ii) (25点)

正しく場合分けができて 5点
 $k \geq 3$ のとき,

b が最小値をとる状況を説明して 3点
 $k \geq 3$ のとき, b の最小値 (答) を求めて 2点

$1 < k < 3$ のとき,

b が最小値をとる状況を説明して 3点
 $1 < k < 3$ のとき,

b の最小値 (答) を求めて 2点
 $-\sqrt{3} \leq k \leq 1$ のとき,

b の最小値 (答) を求めて 5点
 $k < -\sqrt{3}$ のとき,

b が最小値をとる状況を説明して 3点
 $k < -\sqrt{3}$ のとき,

b の最小値 (答) を求めて 2点

第一回 高二国語

総評

時間制限が厳しかったためか、古文・漢文では白答も目立った。まずは文法事項・重要単語といった基本知識を確認し、少しでも解答欄を埋められるようにしよう。復習する際には、時間を気にせず丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、内容を理解したうえで、再度問題に取り組むとよい。

問題別講評・採点基準

〔一〕 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。

(b)「渴(き)」を「乾(き)」、(c)「摂理」を「節理」などとしており文脈からずれているものや、(d)「侮蔑」を「部蔑」「敏蔑」「蔑別」などさまざまに書き誤っているものが見受けられた。まず文脈を把握し、どのような意味の語が入るのかを確認すること。一字一字の意味を正確に把握し、書き間違えようがないようにしよう。

(二) 誤答は(ハ)が目立った。解説をよく読み、問題文中のどの表現に注目すればよかったのかを確認しておこう。

(三) 〔採点基準〕
「a人々が自明と見なししている事柄を b敢えて疑

わせ c再考を迫る」点を押さえて — 8点
* a部3点、b部3点、c部2点。

傍線部の後にある「常識を鵜呑みにせず、当たり前と思われている事柄を絶えず疑い、物事を根本から考え直す知的活動」を抜き出してきている答案が多かったが、これだけでは「はなはだ底意地の悪いひねくれた学問」という傍線部のニュアンスを説明し切れていない。人々に「敢えて疑わせる」(再考するように仕向ける)という、(しなくてもすすむことをわざわざさせる)という要素を含めて説明しよう。

〔四〕 〔採点基準〕

「a哲学は何の役に立つのかと問題にされても b堪えて平静を装い、強いて反論はせず cただ、「人間は生活の糧などの直接的な効用だけを求めはしない」と説いて d目に見える形では役に立たない e概念や価値を研究する」点を押さえて — 14点
* a部2点、b部2点、c部4点、d部各3点。

比喩表現のニュアンスを汲み取り、文脈に即して正確に説明する必要がある出題。設問にあるように「パン」「つぶやく」「痩せ我慢」という表現それぞれについて説明することを意識して解答を作成してほしい。(哲学は目に見える形で役に立つこととはない)という要素をふくらませて字数を稼ごうとしている答案が目立ち、「人はパンのみにて生きるにあらず」という言葉から読み取れる哲学の存在意義について、わかりやすく整理できているものは少なかった。また「痩せ我慢」という語について説明する、a部・b部の要素が抜けている答案も多かった。制

限字数が多めの記述問題に取り組む際は、解答にまとめるべき要素は何か整理してから、解答作成に取り掛かるようにしよう。

〔五〕 〔採点基準〕

「a有用性を無条件に肯定して自明と見なすことは止め b「何に対して」という文脈の中で有用性を捉え直す」点を押さえて — 10点
* a部4点、b部6点。

設問では『更新』し『深化』する」とはどうすることかを問われているのだから、まず現状の考え方を改めるといふこと、さらに理解を深めていくといふこと、二つの観点を押さえて説明しなければならぬ。単に「役に立つ」という概念について原点に戻って考え直す」とだけ述べている答案、「何に対して」という文脈を明確にする」という点しか押さえられていない答案が目立った。問題文全体の文脈を踏まえ、「自明のものとされてきた「役に立つ」という概念をどのように再構築しようとしているのか、整理して説明しよう。

(六) (i)・(ii)とも(i)を選ぶものが散見された。論の展開や表現の特徴について問う設問はセンター試験でも頻出。選択肢の表現の細部にまで注意を払って、正解を選べるようにしたい。

〔二〕 (一) (a)で(ハ)の誤答が見受けられた。「屈託」の辞書義を確認しておこう。

(二) 「採点基準」

「a」「私」は男女の間につきものの煩わしさを理解できず、b他の女の子とは違い純一との会話を独占できる。c特別な地位にいる。d自分に酔いしれていた。点を押さえて。——10点

* a部4点、b部3点、c部1点、d部2点。

（男女間の煩わしさを理解できず）という要素まで説明できた答案は少なかった。当時の「私」が男と女の間に面倒くさくある筈だとわかっていたら、たとえ純一に「面倒くさくない・特別だ」と思われていると知っても手放しで喜ぶわけにはいかなかったはずだ。なお、「自分に酔いしれていた」の部分を「優越感に浸っていた」「得意になっていた」とまとめている答案もあったが、ここは「夢中」という語義を踏まえて「我を忘れていた・他のことが見えなくなっていた」という方向で説明してほしい。夢中になった背景にどのような事情があるのかを踏まえつつ、心情を丁寧に分析しよう。

(三) 誤答は(四)が目立った。このような長い選択肢の問題を吟味する際には、選択肢一つ一つにキズがないか丁寧に確認していく必要がある。自覚した恋心に戸惑う「私」だが、それを純一に打ち明けたいとまでは思っていないことをとらえてほしい。

(四) 誤答では(四)が目立った。解説にあるように、「私」が「リエ」に話しかける時点からの発言内容とリエの様子を整理し、心情をとらえよう。

(五) 「採点基準」

「a」自分にはない繊細さを持ち、恋心を体で表現できるリエに嫉妬し、b彼女の思いを純一に気づかせたくないという思いや彼女が純一の関心を引きつけるだろうという予感に心を乱され、c彼女の心を傷つけたかった。点を押さえて。——13点

* a部5点、b部6点、c部2点。

何をどこまで説明するか悩んだ様子の答案が多かった。傍線部の「そのこと」が直前の「傷つけてしまった」を指すこと、傷つける対象となるリエが「純一の関心を引きつけ、私の立場をおびやかす存在である」ことは多くの答案が押さえられている。一方で、私の「動揺」や「嫉妬」、リエの「繊細さ」まで指摘した答案は少ない。傍線部直前の「傷つけてしまったのに気付いた」という表現からは、初めから傷つけようという明確な目的を自覚していたわけではないことを読み取ってほしい。自分にはない繊細さを持つリエが純一を振り向かせるかもしれないという不安、そんなリエに対する嫉妬。解説をよく読み、リエをめぐる私の心情をとらえよう。

(六) 誤答は(四)が目立った。問題文中にはリエの視線が「媚を売」っている指摘部分がありまぎらわしいが、「その鱗粉を……」の表現と結びつけるのは早急に過ぎる。また、リエに対する心情を「憎悪」とするのは言い過ぎ。表現の特徴についての問題は選択肢を比較検討していく姿勢が、よりいっそう重要となる。言い過ぎのものや明確な根拠のない

ものを確実に除いていくこと。

(一) まぎらわしいものもあるが、助動詞の意味の識別は古文読解の大事な基礎となる。ここで間違えてしまった人はもう一度しっかり復習しておこう。

(二) (a)「上下」を単語集などで見かけることは少ないが、古文ではよく目にする語なのでこの機会に覚えておくこと。(b)(c)は現代語の「あからさま」「ならふ」とは異なる意味を持つ語。どちらも頻出語なので覚えておきたい。

(三) 「採点基準」

(i) 「a」いづれ、(c)が、bあきにあはではつ、cべき」を、aどちらの草が、b秋にならないうちに枯れる、cだるうか、いや、どちらの草も秋になって枯れるだろう」と訳して。——5点

* a部1点、b部3点、c部1点。

(ii) 「a」仏御前も私祇王も、b結局清盛に飽きられてc終わるだろう」と説明して。——5点

* a部2点、b部2点、c部1点。
「秋」と「飽き」の掛詞は押さえられていたが、二重の意味をきちんと把握できている答案は少なかった。和歌は人物関係や和歌前後に書かれた内容との関連を押さえて読解しなければならぬ。リード文の内容も踏まえて検討すること。

(四) 「採点基準」

「a 参る b まじくは c そのやうを d 申せ。 e 淨海が f はからふ g 旨あり」を「a 参上し b ないつもりならば c その理由を d 申し上げよ。 e 私も f 考える g ところがある」と訳して

——8点

* a部1点、b部2点、c d e f g部各1点。

傍線部の中にポイントとなる単語や文法事項が複数含まれており、それぞれを適切に訳出することが求められている。助動詞「まじ」を「……ない」と訳した答案が目立ったが、これでは打消と区別がつかないため、打消意志であることがわかるように訳出したい。

(五) 「採点基準」

「a 祇王の b 都を追放されることを恐れる母の願いを受け入れて c いやいやながら清盛のもとに行く d つらい気持ち」を押さえて

* a b c d部各2点

問題文の展開を整理し、清盛邸への参上をかたくなに拒んでいた祇王が、母に強く説得されてようやく清盛のもとへ参上したという経緯を押さえる。(母の願いを受け入れて) (清盛のもとに行く) どちらか一方しか押さえられていない答案も見受けられたが、祇王自身の心情としては両方を説明しておきたい。

(六) 誤答は各選択肢に分散した。「露」が(祇王自身)を表すという比喻、清盛と祇王が別れた翌年の

春という状況を結びつけて選択肢を検討すること。和歌は入試でも頻出なので、苦手意識は早いうちに克服しておきたい。

(七) 誤答は(ハ)が目立った。内容合致の問題では、現代文同様、選択肢の細部にキズがないか、一つ一つ丁寧に吟味していくことが大切である。解説と問題文全訳を参考に、誤りのポイントを確認しておこう。

(四) 漢文

(一) いずれも基本語彙だが、特に(a)「所以」を「ところをもつて」、(b)「尽」を「つきる」「つくす」などと読んでしまっている場合は要注意。漢字の読み・字義は、内容読解の重要なポイントになる。これを機に、しっかり覚えておこう。

(二) 文脈把握の設問。ここで間違えてしまった人は、問題文を丁寧に読み取り、文脈を追っていく読解を心がけよう。

(三) 「採点基準」

「必ず a 我の行くや、b 漢の c 患ふる者と d 為らんと」を「a 匈奴に私が行ったなら 必ずや b 漢の国が c 困ることに d なりましようよ」と訳して

* a部2点、b部1点、c部2点、d部1点。

〈中行説が匈奴に行くこと〉は押さえられている答案が多かったが、「漢の患ふる者」という表現の処

理に苦戦しているものが目立った。「漢の患者」「漢の病気になった者」では意味が通らない。(漢が困る・悩むことになる) という大意を押さえよう。

(ii) 誤答はさまざまに分散した。(中行説によつて漢が困ることになる) という傍線部の意を押さえ、受身・使役の関係を整理して考えよう。

(四) 「採点基準」

「a 綿入れは藪草や棘の中を動くとき裂けたり破れたりするのに対し b 毛織物はそのような影響を受けず、機能性・耐久性の面で優れている」点を押さえ

* a部3点、b部7点。

記述問題に回す時間がなくなつたのか、白答の答案も見られたが、(綿入れは破けやすいが毛織物はそうではない) という大筋は押さえられている答案が多かった。毛織物が優れている理由について説明するので、その具体的な特徴から一歩踏み込んで、(機能性・耐久性) についても説明できるとよい。

(五) 完答できている答案は多くなかった。誤答が目立ったのは(ハ)。問題文中から確実に読み取れることかどうかに注意して選択肢を吟味しよう。

第二回 高二国語

総評

時間制限の厳しさもあってか、白答も目立った。まずは文法事項・重要単語といった基本知識を確認し、少しでも解答欄を埋めることを心がけよう。復習する際には、時間を気にせずに丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、話の展開を押さえてから、再度問題に取り組むとよい。

問題別講評・採点基準

一 評論

(一) 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。
(d) 「二環」を同音異義語の「二貫」とするもの、「二還」「二慣」などと誤るものが目立った。まず文脈を把握し、どのような意味の語が入るのかを確認すること。

(二) (x) 〈正確かつ適切に表現している〉という語義を踏まえた解答はほとんど見られなかった。ニュアンスはわかっているが、三字という短い字数で端的にまとめるのは難しかったかもしれない。この機会に辞書での意味も確認しておいてほしい。

(y) 「採点基準」

「a 人の b 不注意や怠慢から生じる a 災害」と押さえて 5 点

* a 部 3 点、 b 部 2 点。

〈人が引き起こす災害 〉という a 部はおおむね押さえられていた。字数制限を踏まえ、〈過失や無策によつて生じる〉という b 部の要素も含めること。

(三) 「採点基準」

「a 普遍的原理ですべて対応できるとは限らず b 予測できないトラブルの生じる可能性が c 大もとにある」点を押さえて 10 点

* a 部 4 点、 b 部 4 点、 c 部 2 点。
〈普遍的な原理で対応しきれない〉という a 部の要素は押さえられている答案が多かった。だが、それだけでは「根源的な不確実性」とはどういうことかの説明にはならない。傍線部直前の「二〇〇パーセントの安全もそもそもあり得ない」という表現をそのまま使う答案も見られたが、その理由を説明しなければならぬので、「不確実性」を〈予測できないトラブルの生じる可能性〉、「根源的」を〈大もとにある〉などと言い換えてまとめる必要がある。

(四) 「採点基準」

「a トラブルの発生時に自動的にそれを最大限に回避するシステムのフェイル・セイフは、b 無限に作れないがゆえに割り切つて作るしかないのに、その割り切り方が難しく、c しかも、このシステムが働いたとき、それが機械の誤作動か否かの判断も難しい場合があるため」と押さえて 16 点

* a 部 6 点、 b 部 6 点、 c 部 4 点。
〈フェイル・セイフはどこかで割り切らなければ

ならないシステムである〉という要素はおおむね押さえられていたが、「完全なものとは言えない」理由を説明するためには、〈その割り切り方が難しい〉点を明示し、さらに文中で説明されている〈誤作動か否かの判断が難しい〉点まで含めなければならぬ。字数制限が百二十字と多めなので、自分の解答は必要な要素を網羅できているか、因果関係を正しく説明できているかに注意して復習するとよい。

(五) 白答も見受けられたが、おおむねよくできていた。解説で示したように、各段落の論理展開を丁寧に押さえていくことが大切だ。

(六) 誤答は (イ)・(ロ) が目立った。選択肢はいずれももつともらしく見えるが、筆者の「二〇世紀型科学技術」に対する問題意識を押さえ、選択肢一つ一つを丁寧に検討してほしい。

二 小説

(一) (a) (c) ともよくできていた。語句の問題や漢字の問題は確実に得点できるようにしておきたい。

(二) 「採点基準」

「a 激痛に耐える美雪を見守るといふ緊張から解放されて気が緩んだ遠井に b 不意に安楽死の是非という深刻な問いを投げかけ c 衝撃を与える」点を押さえて 11 点

* a 部 4 点、 b 部 4 点、 c 部 3 点。
「横蹴り」なので、予想していなかった衝撃とい

うことになるが、「遠井が思ってもいなかった安楽死」という言葉を持ち出し、遠井の不意をついて驚かせるといふ行動」は説明として物足りない。緊張から解放されて「ほっとした瞬間」に投げかけられた予期しない問いなので、衝撃が大きかったのである。この点からもc部は「困らせる」「困惑させる」程度では弱い。「くらわす」には、「相手の欲しないものを与える」という意味がある。「横蹴りをくらわす」という表現から、遠井の受けたショックの大きさを説明してほしい。

(三) 誤答は(ウ)が目立った。このような選択肢の問題を吟味する際には、問題文と選択肢とを一つ一つ照らし合わせて丁寧に確認していく必要がある。「治療にはさらなる苦痛を伴い、必ずしも助かる保障もないため」は問題文から読み取れない内容である。

(四) 誤答は(イ)が目立った。この選択肢でも、「せめて美雪の前では明るくあろうと決意している」は問題文のこの場面からは読み取れない。

(五) 〔採点基準〕

※ a それまでは自分の身に実際に起こるとは思えず、あくまでも想像上のものであった死が、b 自分にも十分に起こり得る切実な問題となった。点を押さえよう。——11点

* a部7点、b部4点。
「死というものが遠井にとつては概念にすぎなかつたが、瀕死の美雪と接したことで、現実味を帯

びてきたこと」といった答案では、「観念の世界」から「波打ち際に流れ着いた」という変化についてはとらえられている。ただ、「彼」の「波打ち際」とあるから、問題文の89・90行目「そして自分の死を思った。怖かった。怖くて眠れなかった」や101行目「遠井は遠井の死を背負って生きていたのだった」といった記述を踏まえて、これが遠井自身の問題である点を明確に示したい。

(六) 誤答は(イ)(ウ)に分散した。それぞれの選択肢の場面と説明が問題文にふさわしいものかどうかを慎重に検討しよう。言い過ぎのものや明確な根拠のないものを確実に除いていくこと。

(三) 古文

(一) (イ)の意味を「使役」ととつたものがあつた。ここは「きこえ」が女御への敬意、「させ給ふ」が「帝をはじめ」とした人々への敬意をそれぞれ表している。(ウ)の意味の誤答はさまざまに見られたが、連体形が「るる」となるのは、受身・可能・自発・尊敬の「る」しかないもので、ここから解答の候補を絞れるはずだ。

(二) (a)「おぼえ」にはいくつかの意味があるが、「御おぼえ」となつていたら、「寵愛を受けること」の意であることが多い。(b)は「わたる」の意味を表せていないものが目立った。(c)は「聞こゆる」を「言われている」としたものが多かった。

(三) 〔採点基準〕

※ a 承香殿の女御に、b 見たい漢籍を貸してほしいということ、c 申し上げて、d くれぬか」と訳して。——8点

* a部2点、b部3点、c部2点、d部1点。

「誰にどういふことを」という点を補つての口語訳だが、補う内容に気をとられたせい、説明問題のように「……ということ」と文末を結んだり、「……ということが聞こえているか」のように「聞こゆる」が正しく訳せていないものが多い。冒頭から、「承香殿の女御」「故式部卿宮」「大将」などの人物名が記されていることに加えて、新たに「蔵人の弁なにがし」「宰相の君」までが登場して、完全に混乱してしまつたようだ。このように登場人物の多い文章では、リード文や注の記述も見落とさずに読み進めよう。

(四) (2) (イ)の誤答がやや目立った。(3) (イ)を選んだ人は「みづから」に「御」が付いていることを見落としたりしたようだ。古文ではこのように敬語の使い方が大きなヒントになる。これからは注意しよう。

(五) 〔採点基準〕

※ a 承香殿の女御が父から伝えられた漢籍を持っていたので、b 大将に自分の恋しい思いを知らせることができた。点を押さえよう。——8点

* a b部各4点。
この設問は白答が目立った。解答が書いてあつても、「実際の事実」を正しくとらえられているものは少なかった。たとえば、「書きつくる昔の跡」を「昔

書いた手紙」と解釈したものがあつた。「跡」には(筆跡)の意味が確かにあるが、ここで女御と大将の仲をつなぐきっかけとなつたのは、女御が相続した父の漢籍である。また、「やは」の反語表現を見落として、「知らせることができなかった」と解釈したのも目立った。女性から男性にアプローチするのが、通常の古文では考えにくい状況なので、この歌を大将から女御に送られたものと考えた人もいたようだ。

(六) 誤答は(四)が目立った。「身に添はぬ心」とは承香殿の女御の詠んだ歌にある「心は身にも添はずなりゆく」を受けた表現である。和歌でのやり取りは、このように相手が詠んだ歌にある表現を受けて返歌をすることが多い。問題文に和歌が何首か出てきたら、設問になつている和歌だけでなく、その前後にある和歌にも目配りすることが大切だ。

(七) 誤答は各選択肢に分散したが、(ウ)がやや多い。問題文合致の設問では、表現の細かい点まで注意して読み、選択肢の細部にキズがないか、一つ一つ丁寧に吟味していくことが大切である。

四 漢文

(一) (a) 「以為」を「もつてなす」と読んでいるものが目立った。直後に「苦痛なり」という引用が来ており、返り点がついていないことに注意。「為」という字の使い分けについて確認しておこう。

(二) 「無常生死」「其」「禿」といった誤答が見られた。「無常生死」の悩みを相談している患者に対する返答であることを踏まえて考えること。

(三) 「採点基準」

「a 蚊や虻に b 食われるのである」と訳して
—— 4点
* a b 部各2点。

おおむね意味をpushさえられているものがほとんどだった。受身で訳出できなかった人は、基本句形を復習しておこう。

(四) 誤答は(四)が目立った。これでは「自分の悩みを真つ先に治してから自分の悩みを取り除く」ということになり、意味が通らない。文脈を正確に押さえよう。

(五) 「採点基準」

「a 我も亦た、b 心に、c 先づ自ら得て d 汝をして又得しむ e べし」と書き下して —— 5点
* a b c d e 部各1点。

特にdの部分の処理が難しかったようだ。「しむ」を「令む」など漢字のままにしてしまった人は、しっかり復習しておいてほしい。

(ii) 「a 私もまた、b きっと c まず第一に自分で長生不死の方法を得て、d さらに e あなたにその方法

を得させるに b 違いない」と訳して —— 6点
* a b d e 部各1点、c 部2点。

「自分が得てからあなたに得させるだろう」という大意はおおむね押さえられていたが、「言葉を補つて口語訳せよ」とあるので、何をさせるのかを明確に示さなければならぬ。第一段落と第二段落で「禿の治療法」から「不老不死を求めること」に話題が転換していることが読み取れない答案が見受けられた。全訳を参考に復習しておくこと。

(六) 「採点基準」

「a 不老不死を得る方法は、b いくらそれを求めても得られないもので、ただ自分が疲労を覚えるだけ」という点で、c 禿の治療法と同じだから」と押さえて —— 9点

* a 部2点、b 部5点、c 部2点。

白答の答案も目立ったが、復習の際はぜひ自力で解答を作成してみたい。まず傍線部を口語訳し、設問で問われているポイントを探る必要がある。(禿の治療法が存在しない)という要素をふくませようとしている答案が目立ったが、全体のまとめに当たる設問なので、(不老不死を求めることの不毛さ)という第二段落の内容を踏まえて説明すること。

第三回 高二国語

総評

時間制限が厳しかったためか、特に古文・漢文の記述問題での白答も目立った。まずは文法事項・重要単語といった基本知識を確認し、少しでも解答欄を埋められるようにしよう。復習する際には、時間を気にせずに丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、内容を理解したうえで、再度問題に取り組みとよい。

問題別講評・採点基準

一 評論

一 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。
a 「糾弾」を「叫弾」、b 「墮落」を「惰落」と誤るものが見受けられた。つくりが似ている字を混同しないように、しっかりと復習しておこう。

二 誤答はさまざまな選択肢に分散した。傍線部周辺の文脈だけ見ているといずれもともたしく見えるが、「象牙の塔」「アカデミズム」それぞれの語義をしっかりと押さえて検討しよう。

三 「採点基準」

〃 a 被抑圧者集団といえども b その内に存在する c 批判されるべき問題”を押さえて—— 10点
* a 部4点、b c 部各3点。

〈被抑圧者集団にどのように反省を促すかという問題〉(同じ命題でも、誰がどのように言うかによって意味が異なる問題)という方向でまとめている答案が目立った。解説で示したとおり、傍線部でいう「こうした問題」とは、問題文1行目の「命題」を指す。この前提を受けて、抑圧者集団・第三者集団の人々はどうのような態度をとるべきか、と問題提起を行っているという流れをとらえてほしい。

四 誤答が目立ったのは「両成敗」。これは第三者が「高みの見物」的立場から唱えるものとされており、空欄直後の「高みの見物」に含まれる。ここは、抑圧者側の問題ある態度として挙げられている「居直り」が最適。

五 「採点基準」

〃 a 抑圧者集団の側が被抑圧者集団の側の非を語る時には b 両者の所属の相違という客観的構造を踏まえ、c 友好の姿勢を明確にした上で、d 常に誤解の怖れを持ちつつ e 相手の言い分に耳を傾けて、f 表現の仕方にも気を配り、g 自分なりの理解に基づき問いを投げかけて h 対話を行う”という点を押さえて—— 16点
* a b c d e f g h 部各2点。

しっかりと取り組んでいる答案が多かった。〈被抑圧者集団を批判するときは、友好の姿勢を明確にして、誤解されないようにする〉という枠組みに沿ってまとめている答案が多かったが、〈自分が相手を誤解しているかもしれないという懸念〉(相手の言い分にも

耳を傾ける)といった〈対話しようとする姿勢〉も押さえてほしい。制限字数が多いため、すべての要素を網羅することは難しかったかもしれないが、しっかりと復習しておこう。

六 誤答が目立ったのは才。誤答理由は解説で示したとおりだが、第三者集団のとるべき立場に限定して述べているように読める点からも、問題文全体の趣旨からはずれるといえる。問題文冒頭の「命題」について、抑圧者集団・第三者集団側の人々がどう向き合うべきか、という筆者の問題意識をとらえよう。

二 小説

一 a b c ともだいたい押さえられていたが、b でウ、c でアの誤答が見受けられた。b は誤りやすいところだが、「損じない」の語義に忠実なものを選ぶ。c 「つくねんど」の意味を知らなかった人はこの機会に覚えよう。

二 誤答は分散していたが、おおむねとらえられていた。人物像をとらえる設問では、自分の思い込みやイメージではなく、文中に根拠が示されていることから判断しよう。

三 「採点基準」

〃 a 釣り船の船頭として、新たな土地で生活を始める前に、b 横浜で今まで世話になった人々のために、

自分でできるだけのことはやり終えてからこの地を去りたいという思い”を押さえて—— 12点

* a b 部各6点。

「海」はこれからの船頭としての生活、「陸」は今までの横浜での生活、という大枠は押さえられている。ただ「陸」での生活について、「吉居の親戚にこき使われていた」「雑用ばかりの生活も離れば懐かしくなる」など否定的なとらえ方をしているものがあった。確かに六さんは吉居の親戚から重宝に使われていたが、「目につく限り……駆けまわった」「自分がいなくなっても当分は大丈夫」という記述からは、吉居の人々に対してできるだけのことをしているという、六さんの好意的な心情がうかがえる。

これが「こまごまとした情」である。なお、「情」について『新明解国語辞典』では、「人間関係が深まるにつれて、高まってくる（ことが期待される）暖かい感情」と説明している。

四 よくとらえられていた。「得手に帆をあげる」の意味を知らなくても、直後の「もう誰の……あやつつてな」から判断できただろう。

五 「採点基準」

” a 隆之介の死を最も悲しんでいるはずのふさ子が悲しみに浸る姿を見せずに気強くふるまう以上、b 自分も泣き顔を見せずに祖父を見送りたいという思い”を押さえて—— 11点

* a 部7点、b 部4点。

よくとらえられていた。「誰よりもふさ子が」の説

明では「誰よりも一番隆之介の死を悲しんでいるふさ子が」のように、言葉を補って説明できていた。「気丈を通ず」と傍線部の表現のままのものがあつたが、ここは自分の言葉で「気丈に振る舞う」などと言ひ換えたい。また杏子について「前を向いていこうと思つた」と説明したものがあつたが、「前を向く」は比喩的な表現なので、もう一步踏み込んで説明したい。

六 誤答は分散していたが、ややエが目立つた。「晴れがましきにも似た感覚」は隆之介の「潔い終わり方」を周囲が「幸せ」と納得し、敬意をもつて受け入れていることからくるものだから、「無責任ともいえる明るさ」とはいえない。表現の特徴についての問題を解く際は、選択肢を比較検討していく姿勢が、よりいっそう重要となる。言い過ぎのものや明確な根拠のないものを確実に除いていくこと。

古文

一 xyzとも誤答は分散していた。品詞の識別は古文読解の大事な基礎となる。ここで間違えてしまった人はもう一度しっかり復習しておこう。

二 aを「にこやかに」とかん違いしたものがあつた。「にほひ」の語義を押さえておこう。bはよくできていた。「思い出される」だと受身にとれてしまうので、尊敬だとはつきりわかるように表現を工夫しよう。c「飽かず」は〈満足しない〉〈飽きない〉の

意味で覚えている人が多いが、〈心残りだ〉という意味もあることをこの機会に覚えておこう。

三 Aは「すでに亡くなっている」「もう生きていない」という旨の解答があつた。「今は世にいない人だ」と思っているだろう」というのは中宮の言葉で、若君の言動にはない。Bは〈中宮が母ではないか〉という点は押さえられていた。Cの誤答は分散していた。この箇所は若君・中宮とも中語で「」が付いていないので、どの箇所を解答の根拠にすればよいのかが難しかったのだろう。このような箇所では、引用を表す「と」などに着目して、慎重に読み進めたい。

四 「採点基準」

” aあなたのお母さんは b私としかるべき縁のある人なので cあなたのことを dあなたのお母さんは eたいそう忘れがたく f恋しく思い申し上げているようなのを g私は見るのが気の毒なので”と訳して—— 13点

* a 部1点、b 部3点、c d e 部各1点、f g 部各3点。

傍線部の中にポイントとなる単語や文法事項が複数含まれており、人物関係がわかるように言葉を補って、それぞれを適切に訳出することが求められている。cは「若君の」御こと」だが、「母君のこと」と解釈したものがあつた。また、「恋ひ聞こゆめる」の「める」を訳していないものもあつた。助動詞・助詞も見落とさずに訳そう。

五 「採点基準」

〃 a 中宮の、b 同じ我が子なのに、c 皇子たちとは異なり宮中から離れた場所で暮らす d 若君をかわいそうに思う「気持ち」を押さえて——8点
* a d 部各1点、b c e 部各2点。

「誰の」が中宮であることはよく押さえられていた。「心情」については、「若君と離れたことを嘆く」「若君に対してすまないと思う」など、中宮自身に向けた気持ちととらえたものが目立った。和歌を詠むきっかけになったのは「宮々にうちかしま」っている若君の姿を見て「いとあはれ」と思ったことで、詠まれているのは「田鶴の子(若君)」なので、若君に向けた気持ちととらえたい。

六 誤答は分散していたが、アがやや目立った。「御簾をひき着て候ふ」とは、御簾を肩にかけるようにしてかしまっている姿の描写。中宮に呼ばれて、二の宮は屈託なく母の部屋に入るが、若君は自分の身分をわきまえて部屋には入らない。内容合致の問題では、現代文同様、選択肢の細部にキズがないか、一つ一つ丁寧に吟味していくことが大切である。解説と問題文全訳を参考に、誤りのポイントを確認しておこう。

四 漢文

一 読み・意味ともに解答するのは難しかったかもしれない。解説でしっかり復習しておこう。

二

一 よくできていたが、一レ点の使い方をよくわかっていないように思われるものも散見された。返り点のルールは漢文学習の基本。読む順番を確認し、どのように返って読めばよいのかをとらえよう。

二 「採点基準」

〃 a 宮廷内の作法礼法につきましては、b 慎み深く行わなければなりません」と訳して——5点
* a 部2点、b 部3点。

後半部を(慎まないことができない)(慎まないわけはない)など、「不可不」が二重否定であることはとらえているがニュアンスがずれる訳出になっているものが見受けられた。「不可」の禁止の意をとらえ、(くしなければならぬ)という強い肯定の意を明確にしよう。

三 「採点基準」

〃 a 来たらずんば b 且に c 通を斬せ bんとすと書き下して——5点
* a b 部各2点、c 部1点。

「不来」が(もしも来府しないならば)という仮定を示し、「且斬通」という後半部と切り分けられることが読めていないものが目立った。「且に……んとす」という再読文字は基本的なもので、しっかり復習しておこう。

四 「採点基準」

〃 a 鄧通は b 額を地に擦りつけ、c (額から)血

を流してまで b 謝罪したのだが、d 申屠嘉の怒りは解けなかった」と訳して——6点
* a c 部各1点、b d 部各2点。

(鄧通が額から出血するほど謝罪している様子)はおおむねとらえられていたが、「解」を(申屠嘉の怒りが解ける様子)ととらえられているものは少なかった。口語訳の問題なので、(謝罪しても許されない)という方向ではなく、「解」が意味するものを正確にとらえてほしい。

五 誤答はア・オが目立った。解説に示したように「上」「丞相」「通」という主語と動詞の関係を整理して丁寧に意味をとらえよう。

六 「採点基準」

〃 皇帝と申屠嘉が、宮廷の礼法を正すために示し合わせて、鄧通を反省させてから許した」ととらえたものが可、8点。

〃 申屠嘉が、皇帝から正式な使いが来たので、鄧通を許した」ととらえたものは4点。

〃 申屠嘉が鄧通を許した」とこのみを押さえたものは2点。

鄧通⇨丞相ととらえるものなど、人物関係を読み誤ってしまう答案も見受けられた。模範解答レベルの答案を作成するのは難しいだろうが、(誰が誰を責めて許したのか)という流れはしっかりとらえてほしい。

総評

例年に比べ、解答欄をなんとか埋めようと努力している様子が見え、解答が多かった。時間制限の厳しい模試ではなかなか納得のいく解答を作り上げることは難しいので、復習する際には、時間を気にせずに丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、内容を理解したうえで、再度問題に取り組むとよい。

問題別講評・採点基準

一 評論

一 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。全問正解できている答案は少なく、a「顧慮」を「考慮」「固慮」、e「包摂」を「包節」「包説」などと誤るものが目立った。しっかりと復習しておく。

二 〔採点基準〕

「a 非正規雇用者として b 補助業務に従事する」という c 雇用形態」を押さえて—— 9点
 * a部3点、b部4点、c部2点。
 〈基幹的な職種以外の仕事〉(パートや派遣労働者)という方向でまとめている答案が多く、a・cの要素を網羅できているものは少なかった。解説をよく読み、傍線部前後の文脈を押さえておくこと。

三 〔採点基準〕

「a フリーターのネガティブ・イメージを b 若年男性に c 負わせ、d 一人前の職業人としての自覚が薄い者 c というレッテルを貼り、e 彼らを正規雇用には値しないと企業が見なす」という点を押さえて—— 14点
 * a d部各3点、b部1点、c部2点、e部5点。

〈若年男性を正規雇用から排除する〉という大枠は押さえられている答案が多かった。どのようにして排除されているのか、制限字数に合わせて解答を作成するのは難しかったかもしれない。若年男性がどのようなレッテルを貼られているのか、解説を読んで整理しておく。

四 誤答が目立ったのはイ。解説で示した通り、「フレキシブル」の語義を押さえて選択肢を検討することが求められる。問題文中の表現が含まれる選択肢をそのまま選ぶのではなく、傍線部の正確な意味を押さえて検討しよう。

五 〔採点基準〕

「a 解剖学的性差に基づく男性の正規雇用は止めて b 競争に勝った男性を〈真の男性〉と見なし、正規雇用者にする」という点を押さえて—— 14点
 * a b部各5点、c部4点。
 〈男闘士の絆〉〈真の男性〉というキーワードをどう説明するかに苦勞している答案が多かった。〈競争に勝ち残れば誰でもそこに加わることができる〉と

前向きな方向でまとめている答案も見受けられたが、問題文末尾の結論を踏まえれば、〈家父長制論理に立脚した上で、競争に勝った男性のみを差別する〉ということになる。自分の答案が押さえられていなかったポイントを確認しておくこと。

六 誤答は分散していたが、やや目立ったのはウ。「ネオリベリズムなジェンダー秩序の論理」とは、「近代的性別分業イデオロギー」を単に肯定するだけではなく、さらに選別を加えるというものになっている。解説をよく読み、正答選択肢を確認しておく。

二 小説

一 a b cともにだいたいよくできていたが、bの「性懲りもなく」は、aの「余儀なく」、cの「融通」などと比べると多少なじみが薄かったのか、アイウの誤答が散見された。「性懲り」の「性」は〈本性〉のことで、〈心の底から懲りること〉を意味する。

二 〔採点基準〕

「a あまりにも頻繁に父からカメラのレンズを向けられていた母を b 気の毒に思う一方、c そこに潜んでいた母に対する父の愛情を d ほほえましく感じている心情」という点を押さえて—— 11点
 * a b c部各3点、d部2点。
 〈母〉に対する心情だけを答えている答案も目につくが、設問には〈父母に対する心情〉とあるの

で、〈父と母に対するそれぞれの心情〉、あるいは〈父と母の関係に対する心情〉として答えたい。そうした細かいところに気をつけて解答できるようになれば、点数は伸びる。

三 全体的に、〈私がそのように感じた理由〉をよく読み取れている。イと答えた人が少数いるが、少々考えすぎてしまったのかもしれない。娘である「私」は、〈母が幸せだったこと〉を疑ってはいない。

四 こちらもよくとらえられていたが、前問の三よりも選択肢が紛らわしかったようで、イウエの誤答が散見される。選択肢のどの表現が不適切なのか、解説をよく読んでおいてほしい。

五 「採点基準」

〃 a 「魂を抜き取られる」という冗談を否定しなかったため b 母が病気になったのではないかと後悔する一方、d 好きな写真を断つて e 母の病気が良くなるよう f 願掛けをしようとしたから〃を押さえて 12点

* a ~ f 部各2点。

形の上では理由説明問題だが、実は指示語の内容を、本文を要約してまとめればよい問題なので、方向としてはだいたいよくできている。ただ、細かい表現の部分で点数に差が出た。「母が病気になったのは自分の言動が原因ではないかと自負し……」と書いた人がいるが、「自負」は〈自分の行動などに自信と誇りをもつこと〉である。

六 正答が一番多かったものの、アイエオにも答が分散した。表現の特徴についての問題は、選択肢が長くなることが多く、内容をしっかり比較しながら読解することが意外と難しい。選択肢のどの部分が不適切なのかを確実に見抜けるように、十分な練習を積んでほしい。

三 古文

一 四つとも正解できた人は、「に」の識別については自信をもつてよいだろう。aの「格助詞」が意外と盲点だったようで、ウエとした誤答が目につく。その結果、bcに入れるものがなくなってしまう、全体がガタガタになってしまったと思われる人もいる。品詞の識別は古文読解の基礎となるため、試験に頻出する。今回の「に」の識別はその代表なので、しっかりと復習しておきたい。

二 1の「いうに」を「優に」と解釈するのは難しいだろうと予想していたが、やはりアウの誤答も多かった。イと答えた人は惜しい。言葉の意味としては誤りではないが、ここは〈式部に対する評価〉であることまで考えて判断しなかった。

2も予想通りエの誤答が多いが、「こまやかにて」を「(とても)行き届いた」風情で」と解釈するのは意訳に過ぎるので、正解のイに及ばない。

三 「採点基準」

〃 a 保昌が式部を b 恋しく思う c 様子を押さえて 6点

* a部3点、b部2点、c部1点。

この「思ひ」が〈恋愛感情〉であることはほとんどの人が押さえていたが、細かなところで差がついた。まず、設問には「人物関係がわかるように」とあるので、〈保昌が式部を(恋した)〉という二人の関係性を正しく示すことがまず重要。さらに、この「思ひの色」は、女院が保昌の気持ちを悟ることになった契機となるものなので、〈表面に現れた様子・気配〉であることまで明示したい。

四 「採点基準」

〃 a 保昌が、b 院の意向に遠慮して式部への恋心を打ち明けられないで、c 神仏に祈って気持ちを抑えようとしたものの、d なお募る思いに苦しんでいると e 知ったから〃と説明して 10点

* a e部1点、b c部3点、d部2点。

院が傍線部のように思った理由は、傍線部の直前に「……など申し上げれば」と理由を述べる表現があるので、保昌が申し上げた内容を要約すればよいとわかる。だから、本文全体の大意を押さえている人は、細かい表現での減点はあっても、だいたい得点できている。しかし、そもそも人物関係を読み取れなかった人も多く、あまりできはよくない。〈保昌が女院に恋している〉などと誤解した人は、本文を最初から丁寧に読み直して、どこでそう読み違えることになったのか、確認しておいてほしい。

五 和歌の解釈に関する問題で、難しかったはずだが、意外と正答率は悪くない。あてずっぽうで選択した人もいるだろうが、(一番それらしい選択肢を見抜く力)も大切ではある。ただ、選択肢が受験者を引っかけないように作られている場合には通用しないので、そればかりに頼るのはやめよう。誤答はウエオに分散した。解説を参考に、誤答となるポイントを確認しておいてほしい。

六 設問に「相手にどのようにしてほしいと詠んでいるのか、『…:てほしい。』につながる形で」とあるので、歌の句末の「なん」が(他に對する自分の望みを表す終助詞「なん(なむ)」であることはすぐに見抜けるはずである。

〔採点基準〕

Y

〃 a 逢瀬の思いが冷めないうちにすぐ b 返事を送つ(てほしい。)〃 を押さえて 7点

* a 部4点、b 部3点。

句末に「文結はなん」とあることから、(手紙を送つてほしい)という意味の歌であることをまず見抜く。さらに上の句から、(夢のような逢瀬の気分が冷める前に)などと補足説明をすればよい。

Z

〃 a ひとり寝の夜の b 袖を濡らす涙の多さを c 知つ(てほしい。)〃 を押さえて 7点

* a b 部各3点、c 部1点

(こちら句末に「知らなん」とあることから、何かを(知ってほしい)と訴えている歌であることを

まず見抜く。(一人寝る夜の袖(を知ってほしい)の意味を正しく解釈するのは難しかったと思うが、解説をよく読んで、次に同じような問題が出たときには、きちんと対応できるようにしておこう。

四 漢文

一 特にc「がえんぜず」ができていないものが目立った。「サ変動詞」という限定に答えようと「こうせず」「ぜせず」などの読みを作り出している答案が見受けられた。重要語なので、しっかり押さえておくこと。

二 誤答で目立ったのはア。使役の句形の解釈が難しかったかもしれない。使役の助動詞「令」+動詞「還」+目的語「車」|| (車を還させる) という構造になっていることに気づけるかがポイントだった。

三 〔採点基準〕

〃 a 豈に b 必ずしも c 罪に伏せ a んや〃 と書き下して 5点

* a b 部各2点、c 部1点。

反語の「豈に…:んや」は押さえられているものが多かったが、完答できている答案は少なく、「必」を部分否定の「必ずしも」と読むことを押さえられていないものが目立った。全部否定と部分否定についてしっかり復習しておこう。

四 〔採点基準〕

〃 a 石渚よ、(お前は) b 執法官(政廷)の仕事に c 戻りなさい〃 と訳して 7点

* a 部3点、b c 部各2点。

(王が石渚に呼びかけている)ことは押さえられても、「事」が何を指すか読み取れていないものが多かった。問題文全体の文脈を押さえて解釈する必要があるので、全訳を参考に、傍線部に至る流れを確認しておくこと。

五 〔採点基準〕

一

〃 a 殺人者は逮捕処刑されるといふ法を破つたので b 政廷として国法を守り死罪となつた行為〃 を押さえて 8点

* a 部3点、b 部5点。

二

〃 a 親を裁くことに耐えられないとの私情から、 b 殺人者である父を逮捕処刑しなかつた行為〃 を押さえて 8点

* a b 部各4点。

方向違いの答案も見られたが、問題文の内容をおおむね把握できていると思われる答案が多かった。ただ、「忠」と「孝」を整理して説明することは難しかったようだ。石渚は父の身代わりとして処刑されたのではなく、国法を守るために死罪となつたのである。解説をよく読んで整理しておこう。

総評

記述問題を白答にしている答案も見られたが、解答欄をなんとか埋めようと努力している様子がかうかがえる答案が多かった。時間制限の厳しい模試ではなかなか納得のいく解答を作り上げることは難しいので、復習する際には、時間を気にせずに丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、内容を理解したうえで、再度問題に取り組むとよい。

問題別講評・採点基準

一

一 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。全問正解できている答案は少なく、特に「卑近」を誤るものが目立った。しっかりと復習しておこう。

二 [採点基準]

「人文学的研究は、a文化や社会の抱える公的な問題 bとも関係づけて人間を広く捉えるべきものなのに、c研究者の私的な好奇心に発し、dその好奇心を満たせば十分なものと見なされてしまうということ」を押さえよ

14点

* a c部各5点、b d部各2点。

〈人文学的研究は公的であるべき〉〈研究者の私的

な好奇心にとどまってしまう〉という大枠は押さえられているものが多かった。「人文学的研究が、個人的な嗜好の問題に還元されてしまう」という傍線部の構造を意識して、「研究者の私的な関心から発し、その枠内にとどまるものとなってしまう」という形でまとめることができているかどうかで差がついた。

三 誤答では「それと同様」が目立った。これは筆者の考える学問のあるべき姿を述べた箇所であり、設問で問われている〈学問の世界で勝負する専門的研究のあり方〉とは異なる。「そもそも」を抜き出すものもあつたが、この箇所は具体的な説明としては不十分。解説を読み、考え方を押さえよ。

四 誤答で目立ったのは才。問題文を通して筆者が問題意識を抱いているのは、〈人文学における専門的研究〉が〈研究者の私的な好奇心のために行われてしまう〉点であり、研究の結果ではなく出発点||目的に対してであることを押さえよ。

五 [採点基準]

「a社会を支える価値を b疑い、問い直し、新たに創造することを目的とする学問として人文学を捉えれば、cその「価値」の問題も、d研究者が私的な関心事から脱却しない限り探究できない(c)公的なものとして位置づけられる」という点を押さえよ

16点

* a d部各3点、b部6点、c部4点。

傍線部の前から、「価値」を問い、観察し、分析

し、批判し、創造していく」「研究の『プライベート化』といったキーワードに着目できている答案が多かった。さらに得点を伸ばすためには、設問の問いかけに対応する文構造になるように解答を組み立てる必要がある。解説をよく読んで復習しておこう。

六 誤答はさまざまな選択肢に分散した。「適切でないもの」を選ぶ点に注意し、丁寧に各選択肢を検討しよう。

二

一 a「見切り発車」はよくできていた。

b「水をさし」はウ「受け入れようとせずに拒絶し」・エ「客観的な意見を述べて混乱させ」を選んだ人が若干いた。漢字では「水を差す」と表記し、「水を入れる・水を掛ける」が原義。つまり〈ちようどいいところに余計なものを入れて、だいなしにする〉イメージである。エは多少紛らわしいが、「客観的な意見」にはマイナスのイメージが乏しく、不適切。

c「浅ましい」は、エ「近視眼的で、思慮が足りない」を選んだ人が多かった。傍線部を含む一文の冒頭にある「それ」は、直前の文の「彼が私と同じ場所にいるという思い」を指す。これは、「自分の能力の境界線を勝手に引き、あっさり」と(画家になる夢を)諦めてしまった「私」の、「嫉妬心にも似た、一種の羨望から来る感情によるもの」と考えられ、傍線部に続く激しい「自己嫌悪」の吐露(特に「私はどこかで彼の挫折を願っていたのか」の一文)か

らも、単に「思慮の足りなさを悔いている」のではなく、自分の下劣さに対する自責の念と考えたほうがよい。

二 「採点基準」

「a 彼が」 b 「一般的な男性よりも」 c 急激に、d 父親になるのだという自覚を c 自分の中に目覚めさせていったということ」を押さえて—— 10 点

* a 部 1 点、b、d 部各 3 点。

全体的によくできていたが、主語の「彼」に当たる言葉がないなど、説明としてのまとまりを欠く答案も多い。また、「意識の上昇カーブが大きい」を「自覚が強い」といった表現で説明した答案も散見されるが、「女性は『瞬間的』との対比からも、ここは〈強さ〉ではなく〈速さ〉のことをいっている。

三 イオと答えた人が少数おり、確かに微妙な選択肢が並んでいるが、「明らかに含まれない」と断定できる選択肢は、ウ「彼が『私』と子供を選んだことを後悔していて、いつかその気持ち爆発するのではないかという不安」だけである。

四 「採点基準」

「a 彼は、二つのことを並行してできる性質ではなかった」ので、b 講師をしながら絵の制作を続けることは諦めて、c 講師の仕事だけに集中する状況になった」を押さえて—— 12 点

* a 部 4 点、b 部 6 点、c 部 2 点。

方向としては正しい答案が多いが、「慣用句の意味

を踏まえて」という条件が難しかったのか、まとまりの悪い説明をしている答案が多い。慣用句の説明をしながら、そこにこの文脈における意味を含ませることを考えれば、説明しやすかったはず。

五 一の c 「浅ましい考え」と連動した心情を問う設問だったが、こちらはよくできていた。イ・エの誤答も少数散見されるが、そこまでの内容は本文から読み取れない。

六 オはほとんどの人が正解できていたが、エの代わりにアを選択した人が若干いる。前向きになったり後ろ向きになったり繰り返す「私」の揺れる心情を、逆接の多用によって表現していることを読み取りたい。また、エの「あらゆる色」には、「希望」の色も含まれていることを見逃さないように。

表現に関する問題は、選択肢の内容と本文の内容を比較することが意外と難しい。選択肢のどの部分が不適切なのかを確実に見抜けるように、十分な練習を積んでほしい。

三

一 a 誤答はカ「尊敬の助動詞」が多かったが、尊敬の「る」は未然形に接続するので、その場合は「たまは・れば」となる。

b 誤答はイ「完了の助動詞」エ「受身の助動詞」に割れた。ラ行下二段活用動詞の活用語尾「るる」の形を覚えておこう。

c 誤答は予想通りオ「使役の助動詞」に集中したが、「使役」とすると〈私に〉わからせてくださいとなり、意味が通らない。

d 誤答はク「形容詞の一部」が多く、キ「動詞の一部」も散見されたが、「はべりな」は「はべり+な」の二語である。形容詞や動詞の活用表からもう一度復習してほしい。

二 x 比較的よくできていた。誤答はウに集中したが、「できなさらない」という敬語に当たる部分が傍線部にはない。なお、「言ひ尽くす」は〈全部言う・最後まで言う〉の意。

y こちらは難しかったようで、誤答がイウオに分散した。確かに紛らわしいが、〈平安貴族の姫君はたいてい女房たちと生活している〉という古典常識を覚えておきたい。

三 「採点基準」

「a 狭衣中将の、b 『伊勢物語』の中で妹に恋心を抱いた人物と同様に、c 妹同然の源氏の宮を恋慕っている心情」を押さえて—— 10 点

* a 部 2 点、b c 部各 4 点。

「昔の跡」を〈旧跡〉のようにとらえた人が散見されるが、実際の〈場所〉のことではなく、昔の物語の〈内容〉のことという。また、ここは「説明」問題なのに、口語訳をした人がいる。設問の指示は注意して読んでほしい。

四 「掛詞」「縁語」の意味を知らない人が多かった

ようで、Aを正しく押さえられた人は半数程度、B Cを二つとも押さえられた人は三割程度。設問にある説明文の「……の○と△は掛詞、※と*は縁語」という説明形式を覚えておくと、今後同じような出題がされた場合に対応しやすい。

五 「採点基準」

「a急に bあなたが私によそよそしくなるのは、 cかえって d周りの者には e不審に d見えま ず fでしょう」と口語訳して——10点
* a d e 部各1点、b 部3点、c f 部各2点。

こちらは「口語訳」問題だが、説明している人がいる。また、空欄のままの解答も目立つ。確かに難しい問題だが、状況がよくわからない場合でも、傍線部の単語を丁寧に現代語に置き換えて書いておけば、何点か部分点をもらえることもあるので、最後まで諦めずに解答してほしい。

六 誤答はイに集中した。ここは主語が省略されたまま人物の行動が次々と入れ替わって書かれているためわかりにくいが一貫して、泣いているのは「狭衣」で、怯えているのが「源氏の宮」である。

四

一 完答できているものは少なかった。特にc・dの「目」の読み分けは難しかっただろう。文脈を踏まえて最適な読みが選べるように、解説をよく読んで復習しよう。

二 「採点基準」

「a将に別れんとして b之に謂ひて曰はく」と書き下して——5点
* a 部3点、b 部2点。

「将別二謂之曰」で切れ目がある文構造であることを読み取れなかったものが目立った。また、再読文字「将に……んとす」を正しく読めていないものも見受けられた。基本事項なのでしっかり押さえておいてほしい。

三 「採点基準」

「a重ねて b身に余る厚遇をいただいている c ならば d他人にねたまれる eことになろう」と訳して——9点
* a c e 部各1点、b d 部各3点。

「為人所嫉」を「人に嫉妬される」と受身でとらえることはできている答案が多かったが、「叨扱過分の訳出は難しかったようだ。国司に任命された弟に兄が問いかけている言葉であることを踏まえて、「過分」の内容をとらえたい。

四 「採点基準」

「a他人の悪意ある行為を受けたときに、b何も言わずにそれを処理するだけだと、cかえって相手の感情を逆なでし、d相手の悪意を増幅させてしまうおそれがあるから」を押さえて——12点
* a b c d 部各3点。

* 「他人に唾を吐きかけられる」という具体例に沿

って説明したものも可。

難度の高い設問だったが、自分なりに解答欄を埋めようと努力している答案が多く見られた。問題文に書かれていない内容まで作って付け加えてしまっているものも見受けられたが、まずは直前の「弟の返答」の内容を押さえることを意識して解答を作成しよう。

五 誤答は分散したが、イ・オが目立った。選択肢はいずれもつともらしく、難度が高かったと思われるが、「人の恨みを買うようなことをしない」(無為自然の態度でものごとを受け流す)という師徳の態度は、「先人の髪膚を全うする」ための手段に過ぎないことを押さえよう。